

十字路で立ち話抄二〇〇五年一月～二〇〇六年十二月

老いに幼年の揺らぎ

吉田恵吉

目次

「図書館」って何？……………	1
同じ球を投げ続けて……………	3
予想はずれな年齢に……………	5
喉力ゼかな？……………	7
リセットしたい気分で……………	9
ちよつとライブなことも……………	11
雪に降りこめられ手探り足探り……………	13
場違いな入館者に……………	15
銀杏の響き……………	17
変声期の彼方で聴く……………	19
転がり堕ちる坂の眺め……………	21

幼老擦れ違う日々	23
矢のような一冊	25
春先のスキーリフトの眺め	27
思いがけない乗り心地	29
またもや雪化粧に	31
サイバー砂漠の漂流物	33
食感遠望	35
春の扉絵から	37
花と緑の交差点で	39
どうでもいいことそうでもないこと	41
木っ端微塵に	43
日々の仕込み味	45
木の芽時のハンドパワー	47

吸い過ぎにご用心	49
それぞれの踏みとどまり方	51
日々の片付け具合	53
その手は操り人形	55
本との距離感	57
暮らしの止まり木	59
梅雨の軒端に憩う	60
控えて待つのも	62
届かない触覚の眺め	64
この手応えの無さは	66
濡れ場を探して	68
ぐうたらに構えて	69

夏を振りかぶって……71

八月の万華鏡……73

ほどよい選択……74

解散風の夏……76

喉元の忘れ物……77

ちよつと気になった木……79

暑さ寒さに躓く……81

どうしようもないおまけ……83

夏の終わりの煙り待ち……85

「猫々堂主人」の詩魂……87

ぶり返した残暑の陰で……89

「敬老」の肌触り……91

ジャズ喫茶「ヨーク」のカウンターで……93

星くずの置きどころ……………	95
内と外を隔てる場所……………	96
恋の値段はいくら?……………	98
第二の季節感……………	100
ネットで本のつまみ食い……………	102
留守に新酒が……………	104
帰り道へのひと時……………	106
子育ての主役は?……………	108
揺れた田舎住まい……………	110
意味とスイング……………	112
九死に一生……………	114
雪の止み間に……………	116

寒中に雪解け：：：：118

いのちをつなぐ手だて：：：：120

あせらずゆつくり：：：：122

ままならぬ流れも：：：：124

ゴメンネとありがとう：：：：126

治療も治癒も：：：：128

空振りもいいかな：：：：130

爺婆バカ画像の数々：：：：132

沈黙を浴びて：：：：134

この冬場を挟んだ2冊：：：：136

「現役」を過ぎても：：：：138

負けて勝つ：：：：140

庭木も枯れるまで：：：：142

情報は漏れコトバは途絶え……144

節目の書き割り……146

治癒の岸辺で……148

昨日と明日に挟まれて……150

とりあえずの感想……152

お粗末ピンボケ風景……154

心体の躰け方……156

あるがままなすがまま……158

やれやれ……160

開かれた姿勢で……162

できることできないこと……164

庭でひま潰し……166

行きつ戻りつ	168
空梅雨の晴れ間で	170
ケーキの味わい	172
夢 <small>ゆめ</small> 残な抜け道	174
軒端の友	176
お盆の渋滞模様	178
綾取りする夏姿	180
本と人と	182
おめぎにカラダ話	184
越したかった夏	186
虫の居所	187
身崩し粹抜け	189
秋雲に映る影	191

老いに幼年の揺らぎ……193

座右の抜け殻……195

何を誰がどんな風に……197

庭がすつきり……199

継がれた家業……201

「愛」と切断……202

授業の合間に……204

枯れ葉舞い上げ……206

老い支度……208

見渡せば……210

裏か表か逆さまに……212

毒後の良薬……214

「図書館」って何？

今年も届いた年賀状への返礼葉書を投函ついでに

一緒に散歩したマー君へのお年玉じゃないけど

作ったばかりの紙飛行機を駐車場で飛ばしてみたり。

娑婆とも音信不通みたいな暮らし向きでいいのだが

まだくたばっていないというか御陀仏じゃないという

お印みたいな感じでもらったお方へ返すつてのもいいかな。

紅白の裏番組の合間に『生きていくのに大切な言葉

吉本隆明74語』をパラパラめくったりしていたらなんと

ひっかかっていた「図書館問答」の出所がようやく判明。

対談相手の奄美の公共図書館勤めの頃の島尾敏雄館長が

あつけにとられ戸惑ったような様子で応えていた初出の

雑誌を読んだ三十五年前の印象がよっぽど強かったのだろうか。

たぶん当時の自分はたまたま配属されてしまった大学内の

一部局として見做せるからやり過ぎせた対談記事だったが

公共図書館で働いていたら違ったことを考えさせられたかな。

東京大空襲の三日後に生まれたとかいう還暦女優が年頭の
インタビュー番組でいまこそ原点から見直すと喋ったようだが
模範解答が見つからないような問いかけも持続のエネルギーなんだ。
(05.01.04)

同じ球を投げ続けて

日本酒そのほかとはほとんど縁が切れそうになって
オンラインショッピングしたカジュアルなワインなど
当たり外れの味わいがお正月のひとときを刻んだり。

新年早々のWBC世界S・フライ級タイトルマッチも最後まで
血統書付きの逸材挑戦者ホセ・ナバロを倒しにかかった
叩き上げチャンピオン川嶋勝重の戦いぶりは圧倒的だった。

ブラッド・メルドーのライブ・イン・トーキョーのCDで
ジャズ・ピアノの歴史を紡ぎ出すような見事な演奏や
テレビ録画した「日本の話芸」の落語を合間に挟んだり。

おなじ映画を観るたびに飽きさせない絵と音とのつながりから
共稼ぎ所帯の夫婦の絡み具合なども眺めわたすようなことまで
アレコレ人がやるようなことはほぼやってきただろうか。

少子化が取り沙汰されたりしているけど子を何人もうける
なんてのは庶民のもろもろの判断の拠って来るところから
親子同士で殺し合うところまで無間地獄を編集するようなもの。

どんな家を営むにしろ亭主に見合った女房がいるように
ひとり何事かをなすほどに監督と編集者の役割をかみ合わせ
どこで切ってどう繋いでいくかで天と地ほどの巡り合わせが。

処世の立ち振る舞いを操るにしたって身体内のさまざまな力を
どう組み合わせるかで人それぞれ随分異なった老い方になってきて
人並みの金太郎飴のような切り口にしたってその刻み方もやや違う。
(05.01.07)

予想はずれな年齢に

先日スキー場で居合わせたTさんとも納得しあつた

この冬場の天気予報はあてにならないこといちじるしくて今朝みたいに急に晴れても対応できない過疎な交通手段。

かといって免許を取ろうなんて気はサラサラないのだが車社会の足手まといみたいな場面にはまつてしまつたりたぶん夫婦ともども気まずいこともどこかであつたはず。

生まれ変われるとしたら果たして車に乗るだろうか

四十年近く続いた仕事や三十年以上続いている結婚生活をもう一回やれますかなんて訊かれた時になんて答えたか。

過ぎてしまえばほとんどどうでもいいことばかりだし

先のことなんてどうなるか分からないからやっていけるいまここをどう掘り返してもまつびらごめんに行き当たる。

いつの間にか二人足して百何歳だねなんて言つたり

ずぼらでこだわらない年齢の数え方をするようになって命の有り様もあり余っているのか足りなくなっているのか。

新年を飾った生花がしよぼくれたあとに残ったみたい
にそれぞれ行きて帰らぬ曲がり角をそのつど垣間見せながら
カサブランカが一つ二つと脱皮するように開花してきた。
(05.01.18)

喉力ゼかな？

誰だつてたまにはあるんじゃない
どことなく不機嫌とかたちで
いつのまにかいじめっ子のように。

ある日ある時なんか魔がさしたみたい
棒で涙をかむような理詰めの一点張り
でどうしようもないいじめっ子のように。

なぜか事あるごとに取りつく島もなく
ビジネスライクな仮面の隙間から漏れる
他人行儀を着込んだいじめっ子のように。

いつのまにやら歪んだり軋んだり
人と人との寄り集まりの錆び落しが
間違つて裏返されたみたいな落とし穴に。

ちよつと難しかったと感想をもらされたり
いつまでたつても分かりやすく話せない
とひよつとしてゆるやかにいじめることに。

どうやら風邪をひいたみたいに喉が痛いはず
世の中に出る前の人に簡単な言葉で伝えられない
窮屈さで喉が詰まってしまったのかもしれない。
(05.01.21)

リセットしたい気分で

日曜日(1/23)は立山山麓の三つのスキー場へ
なんと1万人を超える人出があつたそうだけど
滑るところか風邪で寝込んでまだ立ち直れない。

幾シーズンも前の日祭日じゃ当たり前だったのに
駐車場が終日満車状態だったなんて信じられないが
休眠していたスキーヤーやスノーボーダーのお出まし？

週末にわが家で老若が醸し出す賑わいも途切らせ
何かと世話を焼いてくれる身近な手のおかげで
一気に回復とはいかないのがなんとも歯がゆい。

熱や寝汗も出し尽くしたところで足湯を使ったり
ベッドの傍らのカセットラジオを聴いたりしながら
身体を内観する先に虚弱だった敗戦後の頃のことまでが。

外国人が書いた『敗北を抱きしめて』を手に見たり
寝たきりにならないようソファで全豪テニスを見ると
鼻水が逆流したみたい目やにに邪魔されて続かない。

いただいた出産内祝いの赤ワインの味もわからず
骨盤体操で体内のゆがみやしこりはほぐれても
狂ったみたいな味覚と戻らない食欲への対処法は？
(05.01.25)

ちよつとライブなことも

窓の外は絶好のスキー日和でもまだ身体がついていかないもどかしさが午前のお茶の時間に昨晚会場で買ったCDを響かせれば癒されるのもライブハウスならではの小沼ようすけギター・トリオの絡み合いの余韻。

昨日は見渡す家並の向こうで市内バスと並走する立山連峰に背を押されるように後期最後の授業もなんとか済ませアレコレ学生に應對したり片づけて教室におさらばできた。

一度も病欠で休講にしなかった安堵感にひたる間もなく歩けば歩くほどいつものフィット感じゃないカバンに大急ぎで取って返しドアを透かし見たら教壇にノートPC！

かなりの学生が残っていたし実習や演習課題成績評価そのほか一切合切を覗かれたり噂のネタにされたりしていたら冷や汗ものというのも置き忘れや盗難に備えたアカウント設定をしてなかったから。

短大発最終バスに滑り込み駅前で乗り継ぐ束の間に体力維持の飲食を急いで吐きそうになり危ういところで乗り換えなんとか間に合い家で待ってたヨメと一緒にすぐ近くのライブハウスへ！

近所の中学校が学級閉鎖しているインフルエンザだね
なんて数日前に顔を出した娘に診断されたりしていたが
中高年へと体質改善する風邪の養生の効用としてはお粗末！
(05.01.28)

雪に降りこめられ手探り足探り

朝から降りしきる雪の中をヨメはミーの子守に出かけ
こんな日に出かける用事もない果報者は風邪からも抜け
すつきり気分でアレコレ片づけもこなせるようになった。

これまで学生に与えた実習・演習課題や期末筆記を整理してて
インターネットからの丸写しを見かけたりするもんだからこんどは
期末の筆記問題を学生に見せてインターネットも含めて予習させたり。

学生が受講した教科の理解を表現してくればそれでいいのだが
とにかく学生の誰もが受け入れてくれるような話し方をしないと
とてもいい教育というよりまともな授業にならないんじゃないか。

おそらく高卒にとって司書科目全般とりわけ「情報機器論」なんて
取っつきにくく分かりにくいことこの上ない代物だろうからはじめに
基本的な事柄を話してから稼働している図書館情報システムを見学させれば、

というような当初の思いつきを実行できそうな取っ掛かりもなく
難しそうに質問してきたり答えようとしている学生とのやりとりから
ひょっとして教科書が難し過ぎたからかなと簡単そうなのに変えてみたり。

しばらく寝込んだり除雪したりしても腰が痛くなったりしないような
自身の処し方など工夫次第でどうにかできるようになってくるものだが
いろんな相手とある事柄について分かり合えるような場を創り出す手だては？
(05.02.01)

場違いな入館者に

雪による交通渋滞などを予想して早めに家を出たり
授業まで間が空いたら足が向くのがキャンパス内の
図書館というより図書室といたくなるような場所。

インターネットにつながったパソコンの画面で眺める
情報空間はとてつもない展開を見せつつあるというのに
場としての図書館はどんな風になろうとしているのか。

大学の統廃合や市町村合併の動きの中で図書館が
どんな模様替えをしつつあるのかよく見えてこない
というよりその存在自体が薄められつつあるのだろうか。

どうせやるなら大学図書館と公共図書館をくつつけよう
なんて館種を越えた地域のたすきがけ運動が持ち上がる
なんてことにでもなれば新たな場としての図書館の姿が。

大学図書館の一般公開や公共図書館の相互協力にしたって
館種の壁を越えたところから実質的に展開できるだろうし
トラブルメーカーみたいな入館者への対応もしっかりする。

補講を終えて帰る途中ありそうもない夢想から覚めたみたいに
駅前でバスを乗り換えたらミーの子守をしてきたヨメと乗り合わせ
いつもの近所の立ち寄り先で打ち上げやら全快祝いみたいなことに。
(05.02.04)

銀杏の響き

昨日は朝早く空模様を気にしながら出かけたのだが
4メートル近い積雪の立山山麓は絶好のスキー日和で
スキー実習の小学生の団体の邪魔にならないよう滑ったり。

とつくに20シーズンを越えたこの頃はいつも夫婦で
おなじようなコースを後になり先になりして滑るだけ
なのに時としてお互いの疲れ具合が違ったり筋肉痛も。

2枚の板をしっかりと踏み続ける姿勢に無理や無駄が
あつたりすると後になって滑りに不調や不具合が生じ
急に体調までおかしくなつて立ち往生なんてことも。

身体でやるにしろ頭を使うにしたってまず基本から
ということだがむしろに反復練習ばかりみたいな
レベルにとどまっていると上達の妨げになるのでは。

しっかりと止まったり曲がったりできない子どもたちが
十年一日のごとく指導員の後を数珠繋ぎに滑らされている
定番のゲレンデ風景に唾を吐く若者も見かけられるようになった。

がんもどきや茶わん蒸しの、銀杏もそれなりのものだが
スキーから帰った身体には「銀杏BOYZ」がしっくり響き
こんなことって「ブルーハーツ」にはまって以来じゃなかろうか。
(05.02.08)

変声期の彼方で聴く

大量の雑誌でアパートの床が抜けて重症の男が

2時間後に救出されたなんて他人事じゃないよネ

なんてヨメにからかわれたりしているわが身の回り。

もうLPは増えそうにないけどiPodに取り込み済み

CDはもう要らないはずだったのに売る気にならないのは
しつかり歌えず弾けない者のこだわりでもないだろうに。

ボーイソプラノとも別れて異性が気になりはじめた

合図みたいに歌いだしたり何か楽器もやりたくなったり

そんな切なさに付きまとわれ追いかけられ聴くことに逃げ込む。

この頃はお気に入りバンドを聴くにしたってインターネットの

アーカイブスから好きなバンドのライブパフォーマンスを

追っかけられるようになってCDが増えなくなってきたかな。

コンサートの私的録音の非営利オンライントレードを

容認しているアーティストたちの行為はひよっとしたら

思春期の第2の産声みたいな唱うことへの渴望も織り込み済み？

ブロードバンドじゃないととてもとてもやってけないが
ふらりとライブに出かけるみたいに最近の演奏をあれこれ
気に入ったのをiPodに残しておいて手軽に愉しめていいよ。
(05.02.11)

転がり落ちる坂の眺め

オーストラリアに向かっていた米国の原子力潜水艦「USSサンフランシスコ」号が1月8日(米国時間)グアム島近海で海図に載っていない海山に衝突しほぼ即座に停止し乗組員1名が死亡し23名が重傷を負ったというのが今どきの「海図」ってそんなもんなの？

便利な音波探知機や人工衛星を使ったスキヤニング・システムがあるのに

どうやら海底の地形が詳しく調べられていなかったということなのか

それとも測量すべき海底の範囲があまりにも広過ぎて手がつけられなかっただけ。

シーズン中はスキー日和を選んで滑りにに出かけられるようになって嬉しいが

おかげで幼稚園から高校までスキー実習中の生徒と教師の有り様を眺めさせられる上にいけばいくほどお粗末な現場に居合わせたりするとゲレンデから逃げたくなる。

ひっくり返りそうに權威にあぐらをかいてじぶんの足じゃ立てず

生徒と一緒に滑ったり冬山の眺めを散策することもできなくなった

身のほど知らずがのさばり続けるようじゃ何が起こっても不思議じゃない。

元生徒が社会復帰のお礼参りみたいなことを学校でしかす根っこを

見ようとしてもしない発言が事件のたびに幅を利かせ繰り返されるだけ

生徒や学生を云々するまえに文科省に次いで大学高校中小の教師を叩けば。

何が出てくるかわからないけど息もつけないような規則で縛られたり
見せしめにされたみたいにな耳られる身の置き所のあてどなさから
自力で這い上がれるような道筋の一つも見出せないようじゃお先真っ暗。
(05.02.18)

幼老擦れ違う日々

日曜はほとんどLEGO（青いバケツ）のブロック遊びにかかりきりのマー君の相手をしたりしていた自分はいつたい三十年前に亡くなったじいさんとは幾つ違いだったんだろう？

幼かった頃の叔父さんとかかわりあいも忘れられないがなんといつてもじいさんになって孫と関わるのもそれぞれ生涯の端っこで幼老が逆向きにそれも相手を違え再び遭遇できるめぐりあわせ。

なぜあれほどほこりっぽい田舎道で擦れ違う老人に氣をとられ遠ざかる後ろ姿から目を離すことができにくかったのだろう春一番が通り過ぎた冬枯れの季節だからこそ届いた記憶みたい。

どんどん育っていくものとだんだん衰えていくものとが感覚的にウマが合うみたいなことはほかには求められないから意外に保育所暮らしのガキと年金暮らしのジジイは相性がいいかも。

どんな境涯を生きるにせよひとりで生まれひとりで死ぬだろうに段落のない世代を生きていて幼児と老齡が二度ばかり交叉したりまるでちょっとした句読点を打たれたようなものかもしれない。

この次ぎ来るまでにキャラクター（トラクター？）作っというて
息抜きにマー君が言い残した宿題に手を出したりしているうちに
いつの間にやら時間が過ぎてしまつてやりかけの事が中途半端に。
(05.03.01)

矢のような一冊

定期購読で届いた詩の雑誌の封を開けページを繰るまでもなく今どきのような時代に詩と詩人らはどこでどうして棲息しているのかわからなくなってしまうそう。

あれこれまるでだまされたみたいに大人のふりをして舞台上に登場しては言葉のボタンをかけ違えたみたいにバカ丁寧に取り繕うしかない眺めも切口だけの手際よさ。

フリーターもパラサイトもニートも負け犬もいつたいどこにどうやって実在しているのか誰も信じちゃいないどこまでも手を変え品を替え目先を狂わされているだけ。

みぞれ混じりの風に揺れる電線に音符のように同じ方向を向いて留まっている子雀の群れを前に語りかけ問いかけることなどあろうはずもないから。

安くていい輸入CDや美味しいワインやスコッチが買えるだけ円が暴落しないうちにできるだけ愉しんでおかなくっちゃなんとか病気や災害から免れながらボロ家の毎日の薄い底で。

凹んだり口惜しがったりなるようにしかならないある日に
人類へ挨拶するみたいに幻の中学生に向け書き放たれた
矢のような一冊に出逢ったりするなんてこともあったり。
(05.03.04)

春先のスキーリフトの眺め

シーズンに1度くらいは能登半島が先っぽまで見えたりしたが今シーズンは近いようで遠い立山山麓スキー場の顔になっている山と海が見渡せるパノラマ景観の裏では廃止を含めた検討段階に。

乗り込んだ月曜(22)朝のスキー場路線バスの乗客はぼくら夫婦だけだったからだろうか運転手はバス停で下ろさずガラガラ駐車場を突っ切ってゲレンデ入口に横付け。

当日のスキークーポンを買った駅の窓口のお姉さんも地鉄電車→スキーバス時刻表を配慮してくれたりしたがもはや県企業局スキー場関係者の営業努力じゃどうにもならない。

あれこれ巷を賑わしている企業関連ニュースを見ても会社の寿命など30年もてばいい方だから県が営んできたスキー場が20シーズン以上楽しませてくれて良しとすべきか。

かつてにぎやかでうるさいくらいにゲレンデを賑わせていたあの中・高生らはいったいどこへ消えてしまったのだろうか。北の水平線だけがぼんやり雲がかかってて見渡せなかった。

施設や出し物を楽しむ遊園地やテーマパークみたいな広場での受け身の遊びと違うから出かけていったみんなが参加したりそれぞれが身体を使って原っぱを創りだすような遊びの行方は？
(05.03.08)

思いがけない乗り心地

朝のローカルニュースで雪崩で電車が折り返し運転中なんて耳にしたら昨日のシャーベットみたいな雪上散歩からの帰りがけの春風の感触みたいに乗り慣れた時刻の電車の運転手のマナーやアナウンスがいつもとは違ってた様子が。

2両編成の最後尾からまばらな乗客みんなのいのちを預かったみたいにかめ車内通路を歩いて運転室へ入る乗務の仕方からしてこれまでになかったこといつもだったらホームをスタスタ歩いてきて運転席に着くやガタンと動かすのに。

ほどよく加速したり減速したりワンマン電車のその場その場に応じた過不足のないアナウンスや応対が行き届いていてぶっきらぼうな地方型ともスマートな都市型とも違った運転でいつもとは違う乗り心地で終点まで。

近所で見かけなくなつて随分になるがほんとうに乗り物が好きで好きで運転手になりたいといつていた少年が念願かなつた電車に乗り合わせたかなそんなことをヨメと言ひ交わしたりしたくなるような忘れないひと時。

拾い物の小囁みみたいに面白かったのが『タイガー&ドラゴン・三枚起請の回』でお正月のテレビ放映時に乗り遅れDVDで見たんだけどヤクザが落語に乗り込んで一芸を究めようとする突っ込みかたが見せ場になっていて続きも見てみたくなる。

音楽好きの映画監督が博物館から資金を引き出して作ったブルース映画7部作の2本ばかり衛星放送で楽しんだらほかの5本が気になってこれもDVDで見てまたとない音楽の旅を味わえたがステイビー・レイ・ボーンの姿が見えないよ。
(05.03.11)

またもや雪化粧に

先週後半は一気に暖かくなったりして業者が庭の雪吊りを外したのを狙ったみたいな降雪が重くならない朝のうちに枝から叩き落とすのもやれやれといったところで外してしまったものはどうしようもない。

どうにか日頃からきちんと剪定してある樹木は風の被害を免れたり雪折れしにくいつてことが実証されたみたいなのこ数年の年老いた庭木の様子を見ててもメンテナンスを止めたりしないでよかったよ。

日本のITとラジオとテレビの経営者による三角関係が見せてくれたかな組合の手続もなく声明を出した従業員も加わって会社はいつたい誰のものから国家とは何かという関わり具合までまるで地続きじゃないかということまで。

それぞれのホームページをタブブラウザで呼び出し眺め比べたりしてみてもあれこれメンテナンスの仕方やお化粧具合もとにかく三社三様というより今どき主流の第3次産業の顔みたいなWebで社主の意向がうかがえるのはどれ？

あれだけ世間を騒がせておいてホームページを訪れた一般大衆に伝えたいことがナシのつぶてっていうのも変というかテレビ・ラジオ向けに言ってみただけなのそれとも視聴者とインターネット利用者とは別人あつかいでいいのだろうか。

きっかけはテレビでもネット上には事なかれ一本やりの社員声明文以外に探せば学べる情報も一般大衆の利益∨IT事業＋放送事業の利益∨国家（法的規制）なる対抗関係で盛り上がり機会を見逃さずド素人一般のものの見方や考え方がよほどしっかり間違わないようにしないと。
(05.03.14)

サイバー砂漠の漂流物

N社員声明に続いてP社員会がFSグループに残りたいなんて言いだしたり
F社の新作テレビドラマ制作発表の場で主演タレントKがヨイショ発言したり
朝日夕刊のLBO報道でFテレビがミニ北朝鮮・中国的報道管制の殻を破ったり
その名に違わずホリエモンによってこれからもどんなものが掘り出されることやら。

サーチエンジン検索サービスで登録したキーワードに関するニュースや
Web情報を調べメールで知らせたりしてくれるようになってとりあえず
「図書館」や「吉本隆明」や「個人文庫」などを試しはじめたところ。

吉本隆明関連情報を調べて気づいたんだが某大学図書館WWWサーバに
残してきた氏の著作リストだけじゃなく当時の作業の手の跡が残ったままの
未更新Webページも一緒に消してくれたらもつとすっきりしてよかったのに。

当サイトの「情報探索デスク」も「日本国内の大学図書館関係個人文庫」や
「日本語版『賃労働と資本』(K・マルクス)書誌解題」など図書館勤めの傍ら
日曜細工みたいな手遊びが元になって今まで引きずっているようなものばかり。

僕にとっての個人文庫といえば誰もが柳田国男『遠野物語』で読めるような
昔語りの数々を寝物語に飽きさせなかったお袋の実家のお婆さんがびったり
亡くなってはじめてかけがえのない生きた図書館を失ったことに気づいた。

どこかで司書が作ったりしているいろんな書誌データを集めたサイトを立ち上げられたら面白いんじゃないと話し合ったりしたこともあったかな

図書館勤め先がJ教育大からY国大になり名前もSからMさんになって公開していた
吉本隆明・桶谷秀昭・島尾敏雄・古井由吉・埴谷雄高の Webiography は何処へ？

(05.03.18)

食感遠望

陽射し暖かいゴンドラリフトの下を小さなカモシカが朝の散歩に
真っ青な午後にペアリフトを降りた山頂でジェット機が交差したり
サングラスを透し春の光が匂い立った立山山麓スキー場が遠のく。

あちこち滑ったスキー場に美味しいものなしなんてどうなんだろう
通いつめた地元でビーフカレーにコーヒーやラーメンに豚汁や煮込など
せつかく食べるんだったらあの小屋でと言いたい看板の味なんてのも。

ここんとこ体育館に出かけるたびにガットが切れたりしてるが
衰える一方のバドミントンやラ来シーズンまで名残惜しいスキーなど
老いの入り口で一緒に楽しむ相手がいるつてのが食生活と地続きみたい。

一日の暮らしから仕事に費やす8時間がなくなってしまう
ひたすら食うために働いていたのが今じゃおいしく食べたり
そして飲んだりするために運動を続けているようなところも。

家族3人の昼食を終えるのに1時間以上なんてことが
あたりまえみたいなことになってしまつて中食はもちろん
外食もほとんどしない引きこもり型の食生活がしつくり。

わが家の味の作り手もおふくろからヨメへと移り変わって
ゆきあたりばったり手を抜いても気は入っている食の毎日で
家族みんなが元気でいられるってのがなんともありがたい。
(05.03.25)

春の扉絵から

小・中・校そのほか春に通り抜け出た学校のことなど
定かでなくなってしまうのに校舎から眺めた
桜の感触から聴こえてきたりする響きに耳を傾けたり。

娘の誕生祝いにいただいた桜の木が花開くようになって
これからという時にアメシロにやられどうしたものか
なんて困ったあげくにととうと伐ってしまったことがあった。

高齢で引越しに同意してくれたじいさんのペットみたいに
運んもらった庭木のなかの八重桜の古木は何処の誰だかが
庭に入り込んで灯油タンクの底栓を抜いて汚染され枯れてしまった。

たぶん十代の曲がり角だったか気ままな一人旅で姫路城の桜を眺め
四国に渡って金比羅山や栗林公園で眺めたりしているうちに雨模様になり
行くつもりだった小豆島に渡らず桜前線とともに鈍行で引き返したことも。

西行の「願はくは花の下にて春死なむ」そのきさらぎの望月のころは
いつ何処でどのように出会ったか覚えが無いのに見果てぬ夢みたいで
近くから遠くまで時と所を隔てるように桜には人それぞれの想いが。

いつの間にやら自転車を引きだしては何度もその下を通り過ぎた
あたりに回帰するみたいに出向いたりなんてこともあったりして
憧れ出ずる場所が人知れぬ生涯の花の名所となったりするようだ。
(05.04.01)

花と緑の交差点で

なんと今週半ばにあつさり夏日の暖かさがやってきたとたん
市内から山麓や海辺へのサイクリング車による距離が縮まったが
チョット風が強かったりするとどちらも二の足を踏んでしまい、

庭に花開いた水仙に誘われペダルを踏んで中央植物園に出かけたら
人気の無さに合わせたみたいに桜並木は開幕前の静けさに溢れてて
なんだか熱帯雨林や果樹室やら雲南やラン温室の見ごろの花巡りに。

今ごろは動物園より植物園が馴染むのも幼い頃の裏山歩きの名残か
園内の散策にあの日あの時の季節感がひよいひよい浅瀬を渡るみたいに
立ちどまった風景にダブったりする植物的な時間の停滞にホッとしたが。

鉢植えのまるで陸に上がった二枚貝から二つに伸びる海藻みたいで
どうやら2000年も生きる砂漠の植物を珍しくデジカメに撮ったのに
もう名前を忘れたけど花の名前となるとますます忘れてしまいそう。

昨日、今日、明日という名前のナス科の花なんてのを眺めたり
していた二人とも手首や指の関節がそろそろ痛んできたりしていて
園内の樹木に比べ加齢による衰えが目立つわが家の庭木も話題に。

部屋に花を飾ったりするように時には動物も植物も無化し尽くした
地上の衛星写真画像をあちこち拡大したり縮小したり画面操作しながら
架空の昆虫や植物を見つけ近接撮影を試みるみたいな距離感もたまらない。
(05.04.08)

どうでもいいことそうでもないこと

新聞やテレビによる中国や韓国の反日の報道は過剰反応気味かな
領土問題やら教科書問題そのほか反日行動の契機はさまざまだろうが
領土の線引きなんて歴史的に限定された代物で本質的な問題じゃない。

海底資源や漁業權益にしたって共同で開発して利用したほうが
いずれの国民にとってもより良いことが分かりきっているはず

曖昧な「国益」の追求が双方の国民の幸せに役立った例が歴史のどこに？

どんなかたちであれよその国を戦場に巻き込めば侵略したことになり
いずれが勝っても負けても関係国家間の戦争責任が問われなければならない
明瞭に戦時下になされたさまざまな事柄の責任を償い続けねばなるまい。

今回の中国の反日行動は根拠が薄っぺらで長続きのしようもないし

誰かの権力維持の為だろうから騒ぎ立てずほって置くしかないだろう

国民国家の政治権力を開いていくべき課題は愛国や排外で達成できない。

報道されている程度から見て「暴力」どころか騒動に毛の生えたようなもの
もし中国の国家権力に向けての異議申し立てだったら共感のしようもあらうに
環日本海をめぐるそれぞれ自国の権力に立ち向かえない民衆の鏡とすべきか。

拉致問題と異なり「君が代」を強制する教育官僚の意地悪ぶりに無頓着なように
日本の首相の靖国参拝や常任理事国入りに日本国民はさしたる関心もなさそう
だが外側のアジア各国からはそれぞれの見え方の違いがナショナリズムの温度差に。
(05.04.15)

木っ端微塵に

暖房の境目がはつきりしないような日替り空模様を縫って
自転車散策の途中で木っ端を刻んだ神仏像を眺め歩いたら
どうやって区別したらいいのか分からない妙な気分になった。

山歩きをしていて県境を右へ左へ自在に跨ぐ面白さや
人がつくった境界線というものがとても不思議な感じ
雲海の下に戻れば人間どうしの境目を突きつけられたり。

引き揚げ者だとか片親だとか学歴があるとかないとか
なぜ車を持ってないのとかあれやこれやのレッテルなど
どうでもいい境目があるようなないような線引きの数々。

そんなもの関係ないと知らんぷりをするうちに季節も変わり
春は新刊本を開くような匂いがして日々が碎かれ開かれる
なんてことも感じたりするから日々の人を愛おしんでみたり。

アレコレ区別し境界を見きわめた結果が差別や優劣を招いたり
境目を引くことはときにはとても困難なことを背負いそうに
なったとしてもだからといって内にも外にも逃げ場は見つからない。

衆を頼んで保護色に隠れてもそれなりの息苦しさがあろう
新緑に飛び込めばそれなりの毒素も飲まなければなるまい
花の季節に逝った人も誕生日を迎えた人も味わいはそれぞれ。
(05.04.22)

日々の仕込み味

例年のごとく行楽で盛り上がるような予定は何もなかったのに都合をつけ娘夫婦が子らと隣県の動物園に出かける車には二人ともほいほい乗ってしまったりする連休のはじまりだが。

お天気しだいサイクリングでどこかへ走るか家で何をするかそんなことより家族で綴る日々の基本となる快食快眠快便に恵まれおまけにこころ動かされたりするには何をどのようにすればいい？

うけない流行らないもてないこともなかった頃のジャズを楽しむのにいったい何枚レコードが必要かジャズ喫茶（死語）のマスターとの結論は手元に500枚ぐらいあれば充分だがコレクションのタイトルは固定できない。

一つの詩や小説や舞台や絵そのほかで揺り動かされたりするのにもさてどのくらいいつぎ込めばいいかパチンコみたいなあたりはずれが時勢が要求してくる授業料みたいなものも払ってカスを見分けなきゃ。

情報化にとりくむいつぼうでどこの図書館も書架や書庫不足に泣いていよう土を吟味し剪定を仕上げ天候に恵まれた収穫を詰めた樽の保存に心を配るそんな風にデジタル・アーカイブもどこかで育てられているのだろうか。

誰もが必要なきに入手さえできれば落語でも何でも安心して棄てられよう
雑踏の中の街角ウオッチャーになったみたいな参加感で楽しませてくれる
始まったばかりの連ドラ「タイガー&ドラゴン」の開かれた笑いに声が出ちゃう。
(05.04.29)

木の芽時のハンドパワー

まるで目覚ましみたいな雷が雨を降らし

濡れた緑のざわつきもおさまった朝方のこと

ふとしたはずみに不調に落ち込み起き上がれない。

手足が冷たくなり身体も強張って震え呼吸しにくくなって

でも前のように意識を失わなかったが回復までの時間も長く

これまで何度も繰り返し返してきたようにどうやら治まったみたい。

たまたまMLB中継で松井秀喜とイチローのチーム対決や

野茂と松井稼頭央の投打の対決を見ようと2階から下りてきて

部屋に入ろうとしたところだったからケガしないで済んだかな。

思い起こせば附属病院のある大学図書館に勤めていた頃だったか

なんだか時々おかしいことになってアレコレ診てもらったのに

何も特定できないまま日々の暮らしに紛れ込ませ養生もしていない。

連休にやって来ていた娘と「五月病」の話になってチョットばかり

気になったりしていたがまさか久しぶりに自分がおかしくなるなんて

今回ばかりは伴侶のハンドパワーで身体に温もりが戻り呼吸できるように。

女子マラソンランナーが十年になる男子監督から離れ独立したとか
長続きするのがいいなんてざらにないというのがほんとうだろうか
とりあえず一緒に夫婦の仲だけはそうとばかりはいえないようだ。
(05.05.10)

吸い過ぎにご用心

火曜朝の発作後はなんともなく木曜午後の授業に出かけられ安堵の思いに浸る間もなく帰りのバスの途中で第2ラウンドがやってきてなんとか呼吸を緩め痺れる両手を揉み解し駅前終点へ。

タクシー乗り場へも娘のマンションへも辿りつけずどうにか目についた駅前のビル1階ロビーのベンチにへたり込みながらなんとか受付嬢に頼んだがビル内で横になれる場所はないという。

やってきた守衛も救急車を呼ぶしかないというような対応で自力でやり過ごす間もなくやってきたストレッチャーに乗せられ救急隊員のなすがままになんとか呼吸をゆつくり保つようにするだけ。

搬送先の救急担当医とのやりとりも聞こえてきたりしてやっぱりそうだったかというような症状名だったようで自宅からそう遠くない総合病院に運び込まれて決定した。

アレコレの処置や検査が終って口と鼻を紙袋で覆われたらもう幕切れみたいに楽になったところで連絡しておいたヨメが迎えに担当医の説明にあった原因となるストレスだけは何か見当もつかない。

いい年をして若い人それも女性に多い症状に遭遇するなんて
先ほど自転車散策がてらに病院の支払いを済ませてきたばかりだが
おかげで来週予定していた健康診断を先取りして済ませたようなことに。
(05.05.13)

それぞれの踏みとどまり方

まともに生きようとしていたら誰だつて
ときには逃げ出したくなるような場面に
さらされるだろうが実行の契機となると……。

1 回目の失踪から呼び戻された漫画家が現場復帰し
寒くて死にそうだったホームレス場面を書き出した翌朝に
「……こっちはもつと悲惨でした」と奥方に書き足されていた。

踏み外しようもないほど切羽詰まっちゃったらどうしようもない
アルコールの助けのあるなしに関わらずいずれ逃亡先といえ
ば精神病棟じゃなかったら塀の中と事が運んだりすることもありがち。

旧日本兵故横井さんや小野田さんの生還から三十年以上過ぎた
戦後六十年目にフィリピン・ミンダナオ島で二人の生存者が発見され
「自給自戦」でしのいできたほかの仲間も保護を希望しているとか。

「誰にも拘束されずに自由に暮らせる。それがいい」
帰国から1年になる拉致家族の子どもらの暮らしぶりについて
親が語ったように家族が一緒に暮らせるのが一番いいということ。

郵便受けに舞い込んだ「今後も住み続けたいと思いますか」という「市民意識調査」の問いかけの一つに税金や年金を納め続けてきたものが感じたりする戸惑いから老後の暮らしまで孤独な五月の風が吹き抜ける。
(05.05.27)

日々の片付け具合

ピアノの弾き語りジャズに耳を傾けたり、おばはん語りに笑ったり土曜の晩はソロによる綾戸智絵5度目のライブを知人夫婦と楽しみ翌日曜は久しぶりにバドミントンのクラブ対抗戦でゲームに出たり。

帰りがけに駅北口のホールや体育館に近い娘夫婦の住まいに寄つたらマー君もミーちゃんも大歓迎で寛ぐどころかあちこち引き回され娘にそこは入っちゃ駄目と言われた片付け加減がこの頃の様子を語る。

わが家の家具類は地震で下敷きにならないくらい片付いているが数千を数えるレコードや本となるとどこから手を付けてよいやら売りにもゴミにも出さず気分転換みたいに動かし模様替えするだけ。

何十年の間に目や耳で整理してきた記憶違いみたいな感触の曖昧さ手にしたレコードは針を下ろした感触だけじゃなく買った場所まで思い出せたりするのに本となるとこんないつ読んだか中味もさっぱり。

ものの覚えも頭の働きもさっぱりの口だからあてにはならないが視覚より聴覚の方が初源的というか原始的なんじゃないだろうか目覚めたときや眠りにおちるときの五感の働きからもそんな感じが。

ブルーマンデーとはすっかり縁が切れたようだがブルーでグルーヴィとなると
レイ・チャールズやローリング・ストーンズに捧げた2枚の新着CDが企画倒れじゃなかった
どんな名作や名演といえどもいま・この暮らしのリズムに合わないものはないかな。
(05.06.07)

その手は操り人形

時の記念日というより「やすんごと」の日といつてももう通じないし関わりもないところでの暮らし向きに落ち着いたというより流れ着いたような梅雨待ちの空。

笹の葉の香りに包まれたサバの押し寿司の手触りの彼方に田植えも終って虫除け前の束の間だけ寝転がっていたような酒も女も世間知らずなまま羽ばたいていられたなんて日々が。

見かけたコラムの「自殺したくなったら、図書館へ行こう」でその気になれる程度だったら別にどうって言うこともないんでは自分にとつての本さえ読めないようなときをどうやってしのげるか。

正午のドンで午前から午後に変わるような着せ替え人形の影が走り去った抜け殻に訪れる人の澱みも流れもすべて受けとめたり濾過してくれる場所でページをめくったりする装置があるのかな。

かのIBMがパソコン事業から手を引いたのを受けてのことなのかどうかあつさりAppleがCPUをPowerPCからIntel製に移行を決定したみたいに誰もがそれぞれの人生の節目をいとも簡単に乗り換えられるとは限らない。

全産業における就業者人口の比率が第1・2次より第3次産業へと高まって
かつては選ばれし人が背負わされたような心身の病がきつい職業生活の場から
一般の家庭生活の場へと密かに根を広げる大衆化を食い止める術は無さそう。
(05.06.10)

本との距離感

し字に隣り合わせの壁二面を棚板と側板で仕切った作り付けの書棚に読みつ放して突っ込んだ本がいつの間にもやら収まらなくなり入れ換えや取出しを繰り返す度に本それぞれの置き場所が分かれる。

いつの間にか遠ざかり棚の端っこから部屋の外に消えるもの。なんとなく棚の上か下のどこかに居座り続けるものもあれば座右つて言うほどでもないがいつも手近かに残るものは少ない。

しょっちゅう読み返したりしない詩集や漫画本なのに

書棚からはみ出してもなんとなく追い出す気にならず画集や写真集ともども買い足した組み立て式の本棚に並べ部屋を狭めたり。

読むことは手の届かないところで書き手と組みあう格闘技めいて20年近く重量級ボクサーの代名詞だったマイク・タイソンも場外へ名前が消え行くように手応えのあった本なども階段裏や押入へ。

金太郎飴の切り口みたいな品揃えの郊外書店に足を運んだりオンライン書店のカバー画像や書評その他を眺めたりするうちに本とのファーストコンタクトだけじゃなくポイントで衝動買いも。

さまざまな図書館のOPACをよそ目に検索ポータル・サイトの
海外版GやYが図書の目録データだけでなく内容の一部まで
見せてくれたりするようになってきたが国内書の手触りはネットの外に。
(05.06.14)

暮らしの止まり木

このごろ明け方に聞こえる目覚ましが雉から
鶯の鳴き声に変わってどつしり構えられない
いかにも不安定な足場加減がそのまま伝わるのに
真つ昼間に見かけるとテレビのアンテナを止まり木に。

自称元競輪選手のギンちゃん

元ドラッグ・クイーンのハナちゃんと

家出少女のミユキの3人が

クリスマスイブに見つけた捨て子の

親を探したりするホームレスによる

ホームドラマみたいなアニメ映画もあった。

聞けばリストラで仕事を失ったあと縁あって

同じ市内で暮らすことになった高校の同級生から

桜の頃に電話があったかとおもうとジャズにのめり込む

きっかけになった夜間短大の同窓生が伝を辿って

6月の青葉を揺らすようにわが家へ顔を見せてくれそう。

定めがたい生涯の復路の彼方からふと現れては

消え行く往路の歳月の影に何かを見いだしたり

そんな年ごろにさしかかったということだろうか。

(05.06.17)

梅雨の軒端に憩う

なんとなく誕生日は真夏日を予想していたのに

6月も末にようやく梅雨空に切り替わったよう
でやっぱ降り降るべきときの雨に庭木も安らぐよう
だ。

ぼんやり原っぱに寝そべっていたらふとやってきた

UFOに吸い上げられるようにバスデーケーキが現
れそんなグリーティングカードが娘から届いたりして、

乗り損ないそうになりながらもどうにか間に合ったよう
で

なんとかここまでやってきた家族列車の乗り心地は
どうやらアレコレ経過点で滞ったり速くなったり
の浮き沈みの繰り返し。

とりわけ働きだす前に誰もが遭遇するかも知れない

さまざまな場面や季節を潜り抜けさせたりする命の糸
には就学前に母の廂から出たり入ったり遊び呆けたひと
時が。

とりあえず家出するみたいな距離の取り方ができれば

なんて言ってみたって何もかも後の祭りみたいなこと
になってしまうからこそ幼年を織上げた家庭の軒下が問
われる。

行き場を失った少年らの行為が伝えられる一方で
乳幼児から思春期までの一貫教育だなんていったいどんな
家庭の育ち方をしたらそんな考えが出てくるのだろう。
(05.06.28)

控えて待つのも

予報じゃ傘マーク続きの毎日なのに
所用で出歩くたびに傘要らずな日和で
俺って晴れ男だったんだろうか！？

昨日も昼前に出かける頃に雨が上がって
市内を流れる川の濁流が山沿いの豪雨を
物語るような盛り上がりを見せ踊っていた。

授業の途中に高校のPTAでの見学があったけど
その時やっていたコンピュータ目録の演習なんて
受験生の父兄にとってチンプンカンプンのはず。

それより付属している図書館などを見てもらって
進学の品定めの手がかりにしてもらったほうが
とりあえず学術情報環境の整備拡充に結びつくだろう。

そんな現役図書館員だった頃の思いつきなんか
もうどうでもいいんだけどいつも真っ先に勤め先の
鍵を開けるように通勤していた開館前のひと時があった。

早めに教室に入って学生さんを待ったりして
終って帰ったバス停に待ち受けたヨメがいたりするから
自転車カゴに教材ノートPCカバンを放り込み身体も軽い。
(05.07.01)

届かない触覚の眺め

1月の打ち上げニュースの時はさほどでもなかったがいざ衝突となるとSF映画みたいにわくわくしてきて

ネットで「ディープ・インパクト」画像を眺めることに。

探査機本体が彗星から約88万kmに近づいたところで衝突体は切り離されたということだけど半年の時空の旅を費やしてどんな5億年の地球の歴史が探りだされることになるんだろう。

放送大学で受講してみたり宇宙への関心が途切れないのは以前山歩きをしていた頃に泊まった白馬のペンションで天体望遠鏡で覗いた夜空の眺めにハッとしてからだろうか。

地上の衛星画像サービスに力を入れた検索サイトで日本各地や近隣諸国をあれこれ空からの眺めに退屈しないし縄文期の地図で東京を散策した本から新たな都市の手触りが見え。

どうにもこうにもインストールできなかったドライバーが更新されようやく動くようになって敬愛する著者の校正ゲラが劣化しないようスキャンした画像で思索の手の跡を眺めるひと時も持てるように。

とても手が届かないような時空が眺められるわりにちっぽけで
チャチというかとにかくコンパクトな道具がもたらす落差が面白くて
ネットワークPCのほかは古びた双眼鏡と天体図鑑ぐらいしか手元がない。
(05.07.05)

この手応えの無さは

梅雨入りが遅かったからシーズンの中休みもないのか
出がけのバス待ちで物凄い雨に不意打ちされたりしたが
新調したノートPC携帯用カバンの防水テストになったかな。

居合わせた見知らぬ若い女が濡れるのもかまわずバス停近くの
車庫にひとり避難し見上げた大屋根の下の窓の廂にこうもり傘が
二つじゃなかった二羽のカラスがじつと雨宿りをしていたり。

ザアザア降りの乗り換えバス停向かいの城趾の

石垣の縁にもあっち向きこっち向き改修された白壁に
黒く浮かび上がるシルエットの群れが雨を避けるように。

とてもじゃないけどこの眺めの遙か彼方のアフターファイブで
城趾公園の野外ステージに向かつて、反戦青年の印の氣勢を上げ
ヘルメットとタオルで顔を隠して街頭に繰出していたなんて。

カード目録作業からコンピュータ目録作業にとって変わられ
いつのまにか分類した図書の冊数も作成したカードの枚数も
図書整理作業の達成感など失われてしまった事だけが確か。

防ぎようもままならぬうちにいろんな社会的な事柄が
身体のすぐそばまで押し寄せてくるようになってしまつて
どこでどう休んだり疲れを抜くかの節目も分からぬままに。
(05.07.08)

濡れ場を探して

夜中だったのか明け方だったのかとにかく物凄い雨足に目が覚めびっくりしたんだが雨降って地固まるような梅雨時ならいいのに。

鳥たちの影も形も鳴き声も失せたかと思うといつの間にか虫たちが屋内に入り込んできたり快速列車みたいに逃げるムカデをどうにか退治した。

買ったことは無いけど忘れずやって来る

さおだけ屋の声もしばし聞こえてこないから

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』を読んだり。

会計学を身近にする語り口のベストセラーの巻末あたりに全国さおだけ屋の統計があったらもう完璧というような出来栄えじゃなからうか。

窓を開け雨上がりの匂いや霧が晴れる肌触りが部屋を通り抜けていく静けさの向こうに蟬の声も隠れていそうな曇り空でトンボが測量を繰り返す。

(05.07.12)

ぐうたらに構えて

短かった梅雨も明けた夏休み最初の土曜（7/23）の午後の体育館は参加もまばらなスポ少バドミントンの子どもたちものんびり帰ってシャワーを浴び夕涼みは近所の寿司屋で冷えた白ワインなど。

「郵政民営化法案」で揺れる参院でひと足先に可決、成立した
「文字・活字文化振興法」で国民の「読書離れ、活字離れ」や
「国語力の低下」に歯止めをだなんてどんな感想が浮かぶか。

識字率と非読書率が先進国とともにトップだとしても

ことさら図書館を引き合いになんか出さなくてもいいだろう
おそらく読んだり書いたりすることは手慰みからしかやってこない。

寝転がって読んだ岡本かの子『金魚撩乱』ではエロスをめぐり
女と肩ひじ張って半生を潰す男が夏の風物の向こう側へ起き上がり
とりあえず「愉しむ」ことのずっとずっと遠くには「創る」ことも。

怒らせたり落してみたりことほど肩は体幹を操る

立ち居振る舞いだけじゃなく対峙する物事を躲したり
腰に劣らずどのような動きを導き出すことになるのか。

身体を取り巻く現実との隙間に引きこもったみたいになれ
撫で肩で身体を引き上げ引き落とせるようになれば
こころも荷を下ろしたみたいに腰痛も肩凝りも失せないかな。
(05.07.26)

夏を振りかぶって

今週はサッカーファンの夏のフェスティバルみたいにあれこれ来日クラブチームとJリーグ所属チームとの親善試合が目白押しでテレビ放映も見きれないくらい。

これまで足を運んだことのある陸上や体操競技やラグビーや相撲や剣道やバドミントンなどなど観戦する位置で面白さもずいぶん違ったものに。

つまらない場所から見たり聴いたりするくらいならテレビ中継（録画）の方がいろんな角度から愉しめるということになりそうだが野球となるとそうでもなさそう。

かつては高校や社会人からプロまで炎天下の県営球場で今じゃナイトゲームとなると市営のアルペンスタジアムで数少ない1軍や2軍のゲームにビックリしたりガッカリしたり。

貧乏席から金持席まで何処で観戦しようと

その場に見合った面白さが約束されていそう

面白いヤジともなるとテレビじゃ絶対聞けない。

一昨日の夕方に買い物から帰ったヨメに誘い出され
前期末採点作業を放り出し球場に出かけるのも久しぶり
バックネット裏から見たロッテ対西武戦が納涼の極みに。
(05.07.29)

八月の万華鏡

こともなく過ぎゆく日々と

めぐりくる忘れられない日々とに

はさまれた八月一日は神通川の花火。

もちろん土手から見上げたことや

勤めていた新館の屋上から眺めたり
橋の上から川面に映えた瞬間まで。

近所の畦道を散歩しても見える高さ
わが家の二階からもよく見えるのに
缶ビール片手に屋根に上ったことも。

遠くから眺めた富山空襲のことは
もう誰とも話すこともなくなつたが
手のひらをあてて象の耳にすれば
音だけは申し分なく聴こえてくる。

双眼鏡じゃ宇宙飛行士が作業中の
スペースシャトルを探せなくても
遠く小さな花火が目の前で満開に。

(05.08.02)

ほどよい選択

孫は来て良し帰って良しだなんて子育てのきつい仕込みも疲れる後片づけも知らん顔でただひたすらおいしいところだけをつまみ食い。

仕事帰りにチョット一杯なんてことじゃなくサイクリング帰りに立ち寄って喉を潤したりたまに居合わせた客人との会話が弾んだことも。

去年だったかヨメが十周年パーティに顔を出したり二人とも馴染んでいた居酒屋のママから電話があつておばあちゃんに専業のためお店の営業が先月限りに。

また一つと言うよりとおきの憩いの場が消え行く無念を切り分けるみたいに近所の魚屋で刺し身を作ってもらいその足で閉店前の暖簾を潜れば初顔の馴染み客との会話も最後に。

居心地の良かった飲み屋を持つまでの来歴はともかくめでたく結婚して相方の商売を手伝っている娘に赤ん坊が生まれたのを契機になされた選択以上のものがあるだろうか。

業績を上げたり失敗したり仕事も終ってしまえば
それっきりになってしまいやり残しなどどこにもないのに
子を産み育てた苦勞も薄らいだりする頃に孫の世話をやける幸せ。
(05.08.05)

解散風の夏

なけなしの退職金が出るまで餞別で食いつなぎ

それから預貯金を食いつぶしながら年金支給の風を

待つみたいなのその日暮らしも家族が元気で生きてこそ。

家でおとなしくしていても体調が潰れそうで

昨日は朝から食事だけはなんとか摂るようにして

寝そべって眺める夏の甲子園1回戦三日目のテレビ中継が

大会屈指の快速左腕投手の強さと脆さを映し出したり

郵政民営化関連法案の参院本会議否決テロップを流したり。

その後には吹いた夜風はもう「郵政解散」と呼ばれたようだけど

小泉構造改革とはいったいなんだったのかますます分からず

なにやらいたるところ綻び穴ぼこだらけでこのままだと

日本はますます破綻の口が大きくなるなるばかりじゃなく

国民生活のいま・ここを争点にしないところに民意も集まらない。

気になる「年金生活も板についた」なんて書き込みが

ウィルス騙り迷惑メールによる閉鎖からようやく再開した

図書館職員長研MLで読めたがそんな先行きもどうなることか。

同じく体調不良の娘からPHS乗り換え案内メールや電話があつたり

あれこれ切れ切れの涼風を集めたみたいに呼吸ももどに戻ったようだ。

(05.08.09)

喉元の忘れ物

点けつ放しのテレビから甲子園のサイレンが
悲鳴のように聞こえた夏バテの寢床の辛さも

過ぎれば身体の毒素を吐き出した抜け殻の心地。

今回の中能登ドライブは、過呼吸、帰りの娘一家に誘われ
「二モ」や「ドリ」や「エイ先生」との再会に声を上げる
孫らとイルカのショウマで見た「の」と「ま」はお初だった。

海といえば首を伸ばした恐竜の喉仏みたいな和倉の
温泉宿から呑み込めそうに近い能登島の眺めが
幼年の能登半島の旅の起点みたいで懐かしかった。

山といえば近かった北アルプスから中央アルプスまで
ほぼ十年腰痛による中断までいろんな上り下りも
忘れられない夏の額縁に収まってしまっているが。

もう駄目かというようにときに過るのはなぜか
いつも忘れ勝ちな親子の関わりにからむように
曇り空の中から落ちてくるボールの掴み損ない。

この夏の読み物みたいに引っかけて忘れられない
リリー・フランキーの『東京タワー…オカンとボクと、
時々、オトン』が
そんな忘れ物の在りかの一つを鮮やかに見せてくれた。
(05.08.12)

ちよつと氣になった木

庭の小枝を震わせたりしていた鶯や

不意に姿を見せて驚かせる雉も姿を消し

双眼鏡を覗けば毛虫が食い荒らす葉っぱが。

家の内と外を隔てる庭の大敵は台風だけじゃない

五月に退治したはずの毛虫がまたもや食い荒らす

庭木に殺虫剤を撒き巣作りした枝を切り離さないと。

何処にでもいて同じように見える毛虫もさまざま

刺す刺さないは繁殖した木の種類でわかっていても

刺されて痛い毛虫がいた木は切り倒したくなったり。

雨上がりの小高い雑木林の墓地に出かけたら

墓参りを遮らんばかりの倒木にどうしたものか

ヨメと二人なんとかしようにも手のつけようもなし。

おそらく去年の台風で倒れたのだろうが

もう少して墓石に当たっていたらどんなことに

あの地域から引越三十数年そのままにしておこう。

やぶ蚊を追ひ払いながら掃除とお参りを済ませ
まるで生死の境界を区切るように倒れた木を迂回し
根の浅い太さと長さを確かめながら帰ってきた。
(05.08.19)

暑さ寒さに躓く

どちらかといえばいつもはなんとなく手にしないようなものを見聞きしたくなるのも夏休み気分の味わいのひとつかもしれない。

読み直したりあれこれ見逃していたものなどオンラインショッピングで補うみたいに関の外暑さもそちのけで読みふけったり。

夜まだ暑い体育館に出かけた時など基本練習に続けて数ゲーム身体を動かした後体調が悪くなったことも。

冷暖房が乏しいというより無縁だった田舎暮らしの頃は暑さ寒さにも慣れていたようで夏場や冬場の運動で体調に異変なんてなかったのに。

ゲレンデの寒さに一気に飛び出したりしないようにところがけていたはずなのに滑ってられないようになったりしたことも。

だんだん強い酒が呑めなくなってきたように
うっかり10度近い温度差をもつともせず
運動を愉しむなんてことはもうできそうにない。
(05.08.23)

どうしようもない。おまけ。

夏休み最後のスポ少バドミントンの土曜は出席が回復し子どもたちの顔に日焼けが目立ち昨春から新加入の若手コーチは腰痛でお休み。

彼女はスポ少バド卒業後もクラブ活動で続け社会人になってコーチとなって現れたのだが体罰どころか大きな声一つ出さず子供らに接する。

少年野球その外スポーツクラブだと日常茶飯事みたい子どもらを怒鳴ったり小突き回して憂さ晴らすだけそんなコーチが子どもらの親だったりするんだから。

夏の甲子園を二連覇した高校が地元に戻って部員に対する部長の暴力行為の。おまけ。騒ぎだが何回殴ったかの報告がどうしたかの事後処理だけ。

現状ではもしレギュラーになれなかった部員などが高野連の体質を逆手にとって野球部を不祥事に曝すなんてことから関係者の誰もが免れようがないんじゃない。

今日もどこかの運動場や体育館で罵詈雑言を浴びせられ
子どもや部員が悪あがきするどうしようもない有り様は
コーチや監督そして親の悪さが乗り移った姿でしかない。
(05.08.30)

夏の終わりの煙り待ち

久しぶり夏休みで訪ねてきた知人と

四方山話の午後を過ごしたりしても

やっぱり小泉・仮面が悪いなんて話しに。

ともに〈戦後〉を生きたとは思えないほど

ひたすら60年の総過程を骨抜きにしておいて

とても憲法改正も有事もあつたもんじゃない。

何もかもなし崩しに戦前みたいな軍国主義に

まるで大日本帝国に引き戻すようなことばかり

目くらましの郵政選挙だなんて踊りたい奴は踊れ。

アメリカのブッシュだけでおさまらず

アジアの隣国にもおべつかをつかいながら

国連常任理事国の仮面までかぶりたがったり。

還暦を迎えた戦後日本人にしか示せない

物言いや態度一つ持ち合わせることなく

口を開けば他人事みたいな物言いにゲンナリ。

4年前に自民党をぶっ壊すと言って
おいて
庶民の生活を奈落へと導く道筋を仕上げ
後は野となれ山となれでも暮らしは止められない。
(05.09.02)

「猫々堂主人」の詩魂

9・11以後のアメリカ・ブッシュ侵略路線を
たしなめなられずついてくだけの小泉外交から
懸案の諸改革どころか党内の争いを議会の外へ
持ち出し視聴率頼みのワイドショウ内政まで。

時おり選挙カーの声も舞い込む窓の外高く
ゆったり舞う二羽の鳶を双眼鏡で覗けば
井戸の底から見上げるような時の流れが。

昭和の終焉から湾岸戦争とバブル崩壊に曝され
円高で荒れた戦後五十年の節目では阪神大震災と
オウム・地下鉄サリン事件が深く刻みこまれた。

ブッシュの世界戦略における錯誤の

ツケも小泉内閣の傘下じゃ避けられないが

原油価格の上昇による物価の値上がり
年金生活者の家計は苦しくなるばかり。

松岡祥男著『猫々堂主人…情況の最前線へ』（ボーダーインク）を手に
「全部、小泉が悪い！」そのほかを読み直せば
日々の鬱憤からから日本の政治や社会情況の先端まで

一九八九年の夏から今年の夏まで歩き通した希有の感性が語りかける「なんでもありの開かれた」ところへ。

(05.09.10)

ぶり返した残暑の陰で

数日前の涼しさはどこへいったやら
第四十四回衆院選後のざわつきの底も
抜け落ちてしまえば何が待っているのか。

夏風邪で熱を出したミーちゃんの子守に
自転車で出かけるヨメと入れ違いに杖と
手押し車のお袋が郵便局からのお帰り。

ひと夏のサイクリングで一度は予期せぬ雨に
ずぶ濡れなんてことももうないだろうとペダルを
漕いだ週末の午後は家まであと少しのところで作られた。

専門的なところからこじんまりした図書館に
転勤になった方から利用勧誘メールが届いたり
これから図書館の駐輪場もコースに加えようか。

市内を走れば再開発ビル工事の一方で
「シャッター銀座」というほどでもないが
抵当がいっぱい張り付いたような空きビルが。

立地に恵まれた物件など地元が買い取って
リタイア目前の団塊の世代が技能を発揮できる
SOHO空間に転用なんてことも夢見たくなる。
(05.09.13)

「敬老」の肌触り

朝方に見事なうろこ雲を眺められるようになって

恒例になったマー君やミーちゃんの保育所の運動会が暑かったり

小ホールの平均年齢が五十歳を超えるような知人の尺八コンサートに

出かければ東の空に秋を告げる月が静かに浮かんでいたり。

出会った時の立ち話が愉快だった近所の高齢者が

一人二人と思ひ出の人になってしまった今となつては

田舎住まいの涙垂れ小僧の頃に聞いた村の年配者の

満州やシベリアの話しの細部も薄れかけてしまっている。

「五人に一人」が高齢者人口にということだそうだが

中でも戦争体験を語れる人が数少なくなってきたてしま

未体験世代との交流なんて覚束ないこの頃じゃないのか。

いつの間にやらわが家のお袋が近所では最高齢で

60年間は戦場からほど遠い暮らしを保てた一方で

いよいよその身体性が剥き出しになるばかりだが。

海と陸との二本立て作業の日焼けを輝かせ

珠洲から三男坊の孫の運動会に馳せ参じた

ご両親に小泉をどう思つか聞かれたりしたが

ますます〈戦争〉の露出に無知な頼れない男の
政治系列では孫どものこれからがどうなることやら。
(05.09.20)

ジャズ喫茶「ヨーク」のカウンターで

暑さも一段落ということで二人で市内をサイクリングしたりすると久しく訪ねていなかった人の訃報に。

高校卒業時に担任が世話してくれたのに

金沢の会計事務所の仕事も二ヶ月で放りだし

富山の大学図書館に職を得てほどなくジャズ喫茶通い。

リアルタイムで一九六〇年代のジャズレコードを

聴き漁った「ニューポート」で働いていた奥井さんが

ほどなく金沢の旧大和の並びで「ヨーク」のマスターに。

偶に自転車を止めたレコードマーケットの店内で

ふとジャズ雑誌のページをめくっていたヨメが

「亡き夫の遺志を継いだ」ジャズ・バーの記事を。

売薬から転身した富山時代はビートルズなんかも金沢に足を運ぶことがなくなった今でもいつもの飄々とした物腰でジャズを鳴らしているとばかり。

一九七〇年代のとある午後に訪れた時だったか
カウンターにあずけた肘に力強いリズムが心地よく
見ればマスターと談笑する山下洋輔さんの指が踊っていた。
(05.09.23)

星くずの置きどころ

宿敵巨人の前で、2年ぶり5回目の優勝を飾ったタイガース岡田監督が語ったように好敵手によって育てられるのも世の習いだからよけい紛い物を投影したり再生して面白がったり。

雑誌の附録でピンホール式のプラネタリウムを組み立てた集中感が投影によって解き放たれたが、ちよつとした作業で満天の星空がわが家に現れるなんて。

寝室やトイレや階段に風呂そのほか真つ暗にしたリスニングルームだと天井や壁やスピーカーのサラネットが輝き鳴らすレコードも星の彼方から響いてきてオーディオ機器の明かりが宇宙船のようだ。

そこから先はどこかで無くしてしまった幼少時の秘密の場所を探すみたいに読み書きの世界に慰めを求めるしかないのだが。

まんべんなく広がった視界からの刺激というかとらえようのない触覚のあてどなさが遠ざかるあたりで星空の投影と音楽の再生が交わったかな。
(05.09.30)

内と外を隔てる場所

午前のコーヒーを飲みながらテレビで観た映画は

母親とその不倫相手を殺したために収容された

施設を退院して25年ぶりに故郷へ戻った男の後日談。

行き場もなく母親と二人暮らしの少年に声をかけられ

いつしか彼の母をとりまく男たちとの関わりができたり
誰も知らない水辺の秘密の場所を分かち合うまでに。

中上健次の「一番はじめての出来事」が人知れず出会う

地方の隔絶した場所の在りかを探り当ててくれていたが
今の子どもらはどこでどんな場所を探し当てて育つのか。

家族として生まれた個を絆に自分だけの個と社会的な個へ

どのように身体が投げ出されていったかが痣のように隠され
失敗したとしか言いようのない母との出会いが刻印されてしまう。

考えたあげくに研ぎ澄ました鉋を少年の母の恋人である

男の頭めがけ2度ばかり叩きつけた刃先はどのようにに
世間を擦って3度目の刃となって自分に跳ね返ってきたか。

再び戻った塀の内側から外の感想はとにかく広がった
としか言いようのないくらい何もかも遠ざかってしまい
第2の殺人を決意させた秘密の場所も閉じてしまっている。
(05.10.14)

恋の値段はいくら？

どんな素晴らしい恋愛小説も現実の恋愛の前では色あせてしまうようにジャズ新譜CDもライブには勝てない。

山中千尋ニューヨーク・トリオの新作アルバム曲をメインにした快演が教育文化会館の空調施設のアスベスト除去工事の残渣など一掃してしまったかな。

ドラマーが新作吹き込みメンバーと違っていたがシンバルワークが素晴らしく人間国宝みたいなでつかいベーシストと若いピアニストによるこれぞジャズの2時間。

どこかステージの照明も落とし気味だったりして40年前の市内の閉店後のジャズ喫茶で聴いたりしたローカルミュージシャンらの深夜の熱い一時が甦った。

レコードの一つ一つをでき上がった作品のように聴くそんな姿勢をおまけだらけのCDに突き崩されてしまいiPodみたいな携帯音楽プレーヤーが新たなミュージックライフを！

「クレオパトラの夢」に「学生時代」が挟まるような第2部で
ピアノが「ラブ・フォー・セール」をやろうよといったら
ベースが「ハウ・マツチ」と応えた響きに背中を押される心地よさ。
(05.10.21)

第二の季節感

遅れた紅葉を取り戻そうとするかのように

北アルプスが薄い雪化粧をはじめ朝晩の冷え込みに
この秋は小春日和をどこかに置き忘れてはいないか。

ロッテ対阪神タイガースによる日本シリーズ第1戦を
7回コールドゲームにしてしまった濃霧のように
風のない千葉マリンスタジアムの季節感に戸惑ったり。

最初のCDを聴いてからとどまることのない出来栄え
無敗の3歳馬が3000メートルを一着で駆け抜けたみたいに
3枚目の上原ひろみピアノトリオ「スパイラル」が響いたり。

いつの間にやら恐竜オタクみたいな物言いをしたりする
マー君と一緒に、恐竜の木々を実際に眺めたりしたら
いったいどんな感想を漏らすことになるだろうか。

BSE（牛海綿状脳症）疑惑に揺らぐ米国産牛肉の
輸入再開にからむ政治的な疑惑と科学的な安全性が
胃袋の中ではまったく相容れないのも内臓の風景のひとつ。

体内に取り込まれた第二の自然みたいな
臓器にたとえば季節のようなものがあつたら
身体感覚はどのように彩りを変えているのだろうか。
(05.10.25)

ネットで本のつまみ食い

ネットでCDやライブ音源をちょい聴きできて
あたりまえみたいになっていることがこのほど
本でもできるようになってちょっと面白い。

誰それが何事かについてどのように言ったり
書いたりしているかちょっと知りたいときなど
図書館をパスして手軽に読めたりするとはまりそう。

左翼の活動屋から文献探索屋に横滑りしただけの
驕りたかぶったとしか言い様のない文学研究など
何ほどのものでもないと批判された男の反応の仕方。

ちょっと気になっていた論争の経緯などがあっても
見落としていた片方がどう応戦したかが調べられたり
オンライン書店の立ち読みで思いがけないつまみ食い。

「なか見！」が毒にも薬にもならない味加減だったとしても
ひとつの「作品」がページ単位の「断片」に解体されたら
それぞれ1冊の本の形を崩した「情報」になるネットの味わい。

オンラインミュージックサイトの出現によつて
レコードとしてのアルバムの顔が薄らいだように
本もそのカバーや手触りを放棄しはじめたようだ。
(05.11.11)

留守に新酒が

送料無料のお手軽ワインセットに手をだし
抜くあとから外れっぱなしのむなしさだが
美味しくないのに酔ったりするのが悔しい。

今週半ばのテレビの二ニュースは黒田夫妻の結婚式と
ダブったみたいなブッシュ大統領来日報道でもちきり
天皇制も日米関係も沖縄からの眺めはどうなんだろう。

祝賀ムードもいいが日米同盟「中間報告」で米軍の
手足みたいな自衛隊や沖縄の米軍基地を見直す
動きがどうなっているのかよく見えてこない。

日米政府が合意した沖縄駐留海兵隊の削減も
7000人のうち6000人がグアムに移動するだけ
その移転整備に必要なカネが日本負担ってホント？

アメリカの国益を優先した特別協定で縛られた
日本犬の鼻面から五千億円が差し出されるなんて
忠犬ハチ公もあっち向いてしまうふざけた話だ。

火星も薄らぐ満月の晩（二／＼）に運動に出かけた帰り
玄関先に置いてあった紙袋を持ったら贈り主が分かった
ボージョレ・ヌーボーの立ち上がりとフィニッシュのよさ！
（05.11.18）

帰り道へのひと時

ここ3年いつも混みあうキャンパス乗り入れの
帰りのバスで席を譲られたことなどなかったのに
乗り合わせた併設高校の女生徒に「どうぞ」だなんて。

どこかで誰もがいつかは出会う風景の一つ
いつのまにか「じいちゃん」にも慣れたように
あたりまえのように「どうも」と頷く座り心地。

ありふれたその日の一コマをヨメと話すうち
3時間半も引き込まれるようにして見たのが
ボブ・デイルンのドキュメンタリー映画（ビデオ録画）。

インタビューに応える形でナレーターを演じた
本人の現在の姿が40年あまり歳月を経た歌と
演奏によっていま・ここに彫り起こされたみたいに見える。

元恋人や共演者の語り口や姿もそうだけど
誰もがいい歳のとり方をしているというか
出来上がっていないくてどこかへ帰る途中みたい。

見つからない答えを探すみたい i T u n e s に入っていた
ディランの曲をシャッフルしながらオンラインで取り込んだ
歌詞を読み返したりなんてことをしている午後のひととき。
(05.11.25)

子育ての主役は？

灰色の流れる雲を割って陽射しがのぞいたり
不意に雨足が屋根をたたいたり冬場に向かう
季節のワイパーがせつせと北陸の窓を磨きはじめ。

庭木の剪定や雪吊りの集金に訪れた庭師が
畑から朝採れ野菜を持ってきれてくれたり
大根の葉っぱを美味しく食べる無意識に安らぐ。

なんてことも孫らがやってきたとたんに
すっ飛んでしまうのも週一ぐらいだと賑やかな
暮らしの愛嬌ある一コマとして悪くはないのだが。

有無を言わさぬ子育てに追いまくられる毎日だと
家庭でゆったり母の無意識が呼吸できるような
持続した時間なんてどこにも見いだせなさそう。

部屋に引きこもったみたいにレコードはよそうか
生まれた娘にも心がつきはじめる前後のことだが
ヨメと話し合ったわけでもないのに聴かなかった。

授かった子をかまっていられる喜びのどこかで
なんとはなしにとりわけ母親にとってそして父親も
どれだけ一人の時間を長く持てるかに苛立つことも。
(05.11.29)

揺れた田舎住まい

耐震偽装が発覚したマンションやホテルの居ても立つてもいられないような居住性に過ぎし田舎住まいの揺れ具合がよみがえる。

砂利道のカーブの外側に面した平屋の一戸建て大型トラックやボンネットバスが通るたび揺れブルドーザーの地響きを地震と間違えたことも。

やがて舗装によって小さくなった車両通過時の揺れにとつてかわつたみたいに向こう三軒両隣に車が飛び込んでびつくりしたりするような事態も。

そのうち身過ぎ世過ぎの勢いで家を建てるなんて運びの中で市外の車道から引っ込んだ迷路みたいな静かで眺めのいい田んぼを買った。

ぼちぼち周りの田んぼも宅地にとってかわり北アルプス連峰の眺めも端っこだけになったが変わらぬ静けさだけがどこか田舎住まいに通じる。

自然災害への備えが粉飾された居住性から
いつ何時襲うかもしれない揺れやひび割れを
先取りした仮住まい心地があらわになった。
(05.12.02)

意味とスイング

点と線をつなぐみたい読み聴きしてきた

村上春樹とビル・フリゼールそれぞれの新作を手にしたバランスがなんとも身体にたまらない。

『東京奇譚集』を読みながら「East/West」を聴いているのか
「East/West」を聴きながら『東京奇譚集』を読んでいるのか
分からなくなるようなながら、体感はかつてなかった今年の収穫!?

読み聴きする者のいま・ここに響きあうというか
作（演奏）者それぞれの立ち方の呼吸が文体や演奏を息づかせ
感受した現在を吹き切るみたいなのとらえどころのなさがいい。

中には「日々移動する腎臓のかたちをした石」が
どのページもつまらない演奏に終始してしまったり
また聴いてる途中で「Blues For Los Angeles」の
退屈な短編のページを閉じたくなるようなところも。

ほかはどれも読みやすく聴きやすいようできごととして
不可解に錯綜するあやうさの縁へ誘い込むような切り口から
確かな語り口で現在の寓話や世代のギャップや日米関係まで。

40年余りも図書館仕事で飯を食ったりしてきた
おこぼれみたいなところで気ままに読んだり聴いたり
やってきた師走の冷え込みを駆け抜ける意味とスイング。
(05.12.06)

九死に一生

3日に届いた年賀状など見たいからと言って泊まりに帰ったはずのマンションの部屋に遅い仕事から帰るひとを待つ書き置きが。

夜を凍らせたPHSの知らせに息も途切れ車ごといなくなってしまった奈落の闇へ空しいコールを繰り返すたび手先も冷たく。

調書に記す実家を出たときの服装など

電話をヨメに代わってもらう手も震えだし見えない常用薬袋のほか何の手がかりも無し。

玄関灯が照らす新雪に入ってきた足跡を見つけなぜか戻った形跡がないのを二人で確かめあいひっそり孫っチイを起こさないよう家捜しも。

今にも戻るんじゃないかオロオロ居間を暖めたり玄関の窓を開け閉めしても車の音もせずあれこれトホホに乱れるだけ。

白々と明るんできた今こそとコールしたら
手応えがあるも繋がらず切ったとたん運よく
マンションで待ち受けた救急搬送連絡がPHSに！
(06.01.06)

雪の止み間に

一月も2週目に入って決まりごとをこなし
約束事も違えない暮らし向きに乗っかって
浮き沈みしながら溶けかかった雪道を歩く。

雪吊りが傾いた庭木の雪も滑り落ちはじめ
しばし寒気もゆるむ鬱々とした時空から
解き放たれる日々がやって来ることを。

なにかと行き来できていたはずのところが
いつの間にか遠ざかったままだうすればいい
とらえどころのない異邦人のようなたたずまい。

やって来ない昨日と届かない明日に挟まれ
日常を生きる序列から見放されたように
閉ざされたところでいま・ここに宙吊られ。

いまどこにいないのいないのわたしかくれんぼ
どこか内閉しているようでも自閉していない
ひたすらあることにとらわれこだわりめぐる。

自分と社会との間に架け渡された橋の行き来で
ことさら自分に忠実に振る舞おうとする限りは
誰だつてとてつもなくズレた領域に投げ出されそう。
(06.01.13)

寒中に雪解け

厳冬からいきなりひっくりかえって
先週末は暖かい雨で雪解け濃霧がたちこめ
今シーズンはまだ一度も出かけていない
地鉄立山線が雪崩で不通なんてことも。

大雪に見舞われた独り暮らし高齢者宅に
不審な雪かき業者が出没とのことだが新雪を
踏みにじった悪徳商法の跡の消え行く先が。

落ちた屋根雪で窓が壊れないよう
除雪に励んだ背戸の地べたも見えたが
さすがに路の臺はまだ匂いもしない。

雪の重みから解き放たれたのに
くたびれ果てた建具のゆがみか
家事室が出入り不能になったり。

あれこれ思いめぐらし励んできたのに
家事や育児に仕事など日々の営みから
締め出されてしまったところの行方は？

予約購読していたことも忘れかけていた
『風のたより』が2年ぶりで十七号が届き
「鎌倉諄誠追悼特集」を手にひっそりうつむく。
(06.01.17)

いのちをつなぐ手だて

先のことはともかくよくもまあ

今日ここまでいろいろあつたのに

後遺症そのほかまだ何がどうなるか

わからないが生きて娘が家に帰ってきた。

どうにもこうにもなくなってしまうた

娘夫婦と子どもだからこそなんとかそれぞれ

協議離婚後の道を新たに歩みださないことには。

一晩も車で一酸化炭素にさらされ担ぎ込まれ

担当してくれた精神科医だけじゃなく以前から

娘が世話になっていた精神科医も若くて所帯持ち。

二人の医者 of 言葉を先週末に聞くこともできたが

その前に僕ら夫婦の腹は決まってしまうていて

これまでもこれからホッとしたり散々な日々も。

死後のことはどうとでもなれとしか言いようがなく

もし天国や地獄があるとしたらどこまで行っても

この世に生きている人々の苦楽のなかにしかあるまい。

まだまだ鬱で自然な日常がままならなくとも
それぞれが今日を生き延び明日につなぐ手だて
あれやこれやの苦勞をしないと自然死にはなれない。
(06.01.24)

あせらずゆつくり

1週間前から閉鎖病棟で療養している娘が

電話で話したがったり会いたがったり差し入れ

そのほか入院先の行き帰りのバス乗り換えにも要領が。

面会帰りのバス乗り換え待ち合わせ時間潰しに

平積みされていた佐藤優『国家の罣』を買ってみたり

ネット社会から拘置所へ閉ざされた男はこの本を読んだか？

あれやこれやでそれどころじゃなかった1月の半ばに

昨年暮れに契約していた「光プレミアム」接続工事が片づき

さすがにデータ転送はADSL接続の比じゃないがWebがもたつく。

幸せにしますから結婚させてください。

娘が引き合わせた男の「ことば」を受け

ヨメともども二人の門出を願ったのが八年前。

気づいた頃には家事や育児に仕事の

すべてだけじゃなく治療用の薬剤の

自己管理までおぼつかないことに。

もうこれから先どのような家庭生活も望めなくなつて別れたからには一方は父子家庭の足場をしつかり築き片方は病を引き受けながら日常生活が営める日々を。
(06.02.07)

ままならぬ流れも

その日によって予想もつかないころのありよう

世の中の動きなんかそちのけみたいに待機したり

テレホンカードも消耗する病棟の娘が話したい相手は？

女性とうつをライブ特集した先月のNHK・ETVを

たまたま途中まで親娘3人で見たりなんかしてもしなくても

うつ病主婦が家族の内外でどのような世間の目線に曝されるか。

自殺未遂後の入院時の娘を見舞ってくれたうつ女性

はなかなか籍を抜いてもらえずやむなく万引きまでして

前科と引き換えにようやく離婚にこぎつけられたとか。

すれ違いの家庭生活がもたらすストレスにどこまで娘は

耐えられたか打たれ強さ弱ささまざまな出来事や想いを

遺書に残したまま二人の子だけは夫に託したのに。

男女の合意からの夫婦生活が千差万別の愛憎でもつれ果て

双方の実家が鉢合わせしたって破綻した原因や責任など

カネやら世間体やら当座の処世などせり出す壁の下敷きに。

やり直しなんてない事態からそれぞれの暮らしの
方途を探る以外に手だてもないところから一歩でも
前に進むこころを持ち続けるほかにどんな道がある。
(06.02.10)

ゴメンネとありがとう

解毒と身体管理の看護のおかげで娘に透析が必要なんてことにならず肝臓の γ -GTP値が様子見ながら退院。

集中治療室から保護室に運ばれたり常用していた抗うつ剤が与えられず錯乱状態でかけてきたPHSが耳に刺さった。

低酸素症による後遺症が危ぶまれる身体に風邪薬を一瓶ぶち込んだって死ねないし日本は未開地じゃないから断食も貫徹できない。

娘のおかげであちこちの閉鎖病棟の内側が覗けたりどうしようもないのや鋭い短編小説みたいな話も耳にしたり。

さまざまな患者の数だけ向きあう家族の見えない姿がそれぞれの背後にうごめくなかにわが家に帰った娘とリタイアした両親との同居も。

付き添わずともカウンセリングにひとり出かけ
帰ってきて身辺周りをそつと片づける姿がいとしく
家庭の幸福は諸悪の根源と書いた作家の声も聞こえて。
(06.02.22)

治療も治癒も

わが家の前庭に差しこむ柔らかい陽射しが
昨年十二月からの残雪を日陰へと追いやり
カウンセリングや面接に出かける娘の足下にも。

うつゝの治療と残ったローンのいたばさみ
気にするなど言っても求人広告が目につき
履歴書の送付先から面接を求められたら断つたり。

時間単価の高い派遣仕事の面接に出かけ
手伝いに行つてきますとメールをよこし
1時間ほど業務をやってから帰ったことなど。

主治医の面談もなく総合病院を退院になり
家に帰った夜に服毒しそうになつてとりあげた
処方薬を袋ごと腹巻き代わりに抱くしかなかったとき
包丁を掴んで薬を返してと迫られ揉み合つて夜中まで。

父と演じたような出来事が離婚するしかなかった
夫との間では起こりようもなかったのではなからうか
そんな娘が外からどう治療し内からいかに治癒しはじめるか？

総合病院のマニュアルどおりの病棟での看護では
個々の患者に即した治療と治癒との使い分けも
心もとなくこうなったら本人の自然治癒力が頼りだ。
(06.02.25)

空振りもいいかな

二月末日のお昼頃にマンションから県外へ引越すから
その前に一目でいいからマー君やミーちゃんの顔が見たくなり
当日朝早く予約治療を受ける娘と一緒にバスで出かけたのに。

病院を出てマンションへ会いに出かけるまでもなく
引越し作業が前倒しになって出発したトラックを追いかけて
手伝いに訪れた別れた娘婿の両親が住む実家へ走りだしたあと。

かかってきた電話内容に3人とも拍子抜け
涙の別れみたいなことにならなくてよかったかも
処方薬の待ち時間に気を取り直すみたいにお茶など。

うつ病で家事や育児がまるでダメになるまで
乳幼児期の二人の面倒を見きっていた娘の姿から
子どもらの無意識の壁の心強さを頼りにするしかない。

なんとか起き上がって離婚協議書も取り交わし
フリーターらしく娘が働きに出かけられる日々が
過ごせるようになっただけでも上出来じゃないか。

結婚する前に娘が乗り回していたオヤジ車が
先方の実家から戻ってどうやら娘の足代わりに
さてその駐車スペースを前庭内にでも作らないと。
(06.03.01)

爺婆バカ画像の数々

なんとかわが家の前庭に駐車スペースを

ということネットでリフォーム・サイトに

書き込んだら数社から問い合わせがあったり。

塀に挟まれた門扉に続く玄関前のアプローチを写した

撮り溜めデジカメ画像で現状を添付しようと探せど

夫が休日仕事で母子家庭みたいな娘と孫らの過ぎし姿ばかり。

何となく孫らを写した画像を手当たりしだいに集め

PCでスライド再生して眺めた午前のひとときの想い

あちこちくつついて行つた爺婆じゃ父親の場所は埋まらない。

娘から母親に変貌しなきゃならない大変さは

いやおうなしの子育てに待ったなしの母性を背負わされ

専業主婦でさえどうやって子から親への変わり身を遂げられよう。

どう母親として産んだ子どもにかかわるかだけじゃなく

家族の根つこととして続く夫婦の営みも変わらず維持する

人間としての力の保ちにくさはいったい何に由来するのか。

起こってしまった家族の問題は夫婦と親子の
関係を軸に血縁間のとりまきに帰着するしかなく
離婚沙汰はしかたがないが裁判沙汰などともない。
(06.03.04)

沈黙を浴びて

ぼんやり霞んで見える山並みから

雪吊りが取り外されたばかりの庭まで

じわりじわりと春が忍び寄ってきている。

中年から始めたスキーシーズンのほとんど

ヨメと一緒に通い続けた立山山麓のゲレンデが

今シーズン一度も滑らないうちに閉じてしまうことに。

泣きたくないのに涙がとまらないことなど

あつたりして冬場の暮らしのデコボコ斜面にオロオロ

晴れた山麓から海の眺めへ滑り降りることもなく。

数カ月前までどうやって死ぬかで身体を痛め

今じゃまるで健康オタクみたいな様相を示し

笑いとばしたりしている姿を見せることも。

家族でもありころを病んだ患者でもあり

医療制度の消費者として何をどう分かちあうか

生きようとする力と生きて欲しいと願う力が交わるところ。

買ったばかりの「倍音浴」CDが響けば
これまで聴いたインド音楽やチベットの読経とは違い
まるで朝まで一直線の眠りがやってきたりする。
(06.03.10)

この冬、場を挟んだ2冊

モノ心が付く前に父親と死に別れたりしたことのある男がとかく陥りやすいのかどうか母親の姿を見てたら女に関心があるのに結婚に踏み切れない自分に戸惑った。

それでも人並みに結婚できたり子も授かったりヨメ以外の女にころ引かれたなんてこともなくお袋や死んだ祖父のほかヨメの親父が同居人だったことも。

いまだに妻や娘に向きあう父性がしつかりせず

由緒の定まらない年金生活者のこの冬の暮らしの

外側からは石関善次郎『吉本隆明の東京』の

内側からは吉本隆明『家族のゆくえ』の

ふた色の家族像が差し込み交差する温もりが。

思い立ったらすぐ離れられ必要ならいつでも戻れる

そんな家族の場を営み続けるほどに大切になる絆も

個と性と社会の3本の綱を独り身で渡らなきゃならないから。

実社会の手応えを掴み損ないそうな一九七〇年代に入り

田舎住まいの宅地や田畑を売り払ったカネで郊外の土地を買い

家を建て結婚生活を始めた二十代の終わり頃からようやく人心地が。

落ちこぼれ共稼ぎ夫婦でも子どももの成長や生活規模に
合わせた増改築ができたのも戦後日本の産業社会のおかげ
そろそろ老体に向かう身体の容れ物としてのリフォームも。
(06.03.14)

「現役」を過ぎても

大学図書館勤めしていた頃のとある利用者から
思いがけないメールをいただいたり過ぎし
その時々、渦中の係わりを見直させられたり。

小学校の高学年から小遣い稼ぎにいろんな
アルバイトに手を染めながら義務教育を通過し
育英資金で高校を出て勤めた税理事務所も出勤拒否。

取得していた税務職員資格がなぜか不採用になり
あてがわれた一般職のなかの大学職員の面接へ
こちらから図書館を選んだのか勧められたのか？

徒弟仕事に慣れた頃に図書館出入りの会社から
スカウトされそうになったが虚弱体質のなせるわざ
とりあえず三十八歳まで勤続できたら儲け物じゃないか。

なぜ結婚というか生涯の伴侶ができたりしたのか
自分一人じゃどうにもならないいろんな絡まり具合が
加担したり昇級試験を受けたりとにかく仕事を続けさせた。

四十年近く大学図書館で司書をまっとうできたかどうか？
もはや過ぎてしまえばそんなことなどどうでもいいこと
年金が頼りの今日この頃も家族4人暮らしの維持が何より。
(06.03.17)

負けて勝つ

この冬はウィンタースポーツに縁がなかったし

トリノ・オリンピックピックじゃ冬枯れ姿が侘びしかった

ジャパンの姿もWBCの日韓三番勝負では一味違った。

場違いな季節にテレビの野球観戦に一生懸命になれたのも

何でも一番のアメリカ神話が野球であつさり崩れたり

ONで語られる日本野球もいずれが率いるかで違つたから。

もう一つの準決勝でキューバに負けたドミニカ共和国出の大リーガーが4番を打った米国チームの2次リーグ敗退にミソをつけたピンボケ審判のプレーぶりもなにがなんだか。

現役日本人大リーガーのWBC参戦ジャパンチームへの

出所進退の決め方にもそれぞれプロとしての立ち姿が

垣間見えた中でこれまでにない姿勢の一選手が際立つた。

兵役免除とかで勝ち上がった野球チームから何が学べるか
ラグビー日本選手権準々決勝で社会人トップリーグ上位の
トヨタに勝って泣いた早稲田は東芝府中と戦う前に負けていた。

成り行きで勝てるうちはいいがなぜ負けなかったか
どうして勝てなかったかを見つけた東芝府中とNECが
616で引き分けた決勝戦がこの冬に咲いた日本ラグビーの華。
(06.03.20)

庭木も枯れるまで

とにかく娘と一緒に出戻ったオヤジ車を止めるのに
ブロック塀を壊し玄関前の庭木も退けて掘り返され
わが家の庭にやってきた春の息吹もなんだか乱れそう。

三十年以上前の田舎からの引越に同意した
九十七歳の祖父と一緒に運んできた庭木だからこそ
移しどころを思案してから引っこ抜いてもらったり。

新居の二階を見たがった祖父をオンブして
階段を上り下りした3年後に立ちあつた御臨終が
四畳半の畳の上で迎えた自然死の姿じゃなかったか。

とかく誕生と死にばかりに視線が滞りがちだが
やたら打擲されたいっぽうでゲテモノの類いから
祝い料理まで食わせてくれた祖父の味も忘れられない。

慢性の凝りも後頭部から肩を抜け骨盤のあたりまで
響きで揉み解されるようにあつたかく呼吸もゆったり
数枚になった倍音浴CDで肩の痛みまで治まりそう。

いまここへきて身体とどう向き合い続けられるか

第二の自然とも言うべきわが庭を維持する身体操法で
体内の動物系を保って自らの植物系を露出させられるか。
(06.03.23)

情報は漏れコトバは途絶え

たぶん創刊号からだったと思うけど

定期購読していた詩の雑誌が休刊になったり

西武池袋店内の詩集専門店も四月で店じまいとか。

国内のいろんな詩人のコトバの発着場みたいで

都内に出た際の立ち読みスポットの一つだったのに
詩書が文学書流通の閉塞状況の先べんをつけたか。

ネットワークPCとファイル共有ソフトとウイルスが

普及したお茶の間だと居ながらにして個人情報そのほか

・防衛情報や・捜査情報などもダウンロードできてしまうことに。

私有PCから第三者の情報流出が頻繁になり

範囲が特定できないくらい広く急速に拡散したら

もう回収できないようなことにならざるをえないから

そんなネットワークそのものを隔離することもできない。

詩人のコトバが流通しにくくなっても

スガシカオや一青窈のような詞人の歌を

聴けるからまだまだ捨てたもんじゃない。

別れた子どもに会いたくなつた娘に頼まれ
先週末の晴れた午後に350キロも同乗した帰り道で
言葉を失つたみたいに海辺の僻地の星空に見とれた。
(06.03.28)

節目の書き割り

司書課程の授業を受け持つて4年目になる

短大から送られてきた時間割や学年歴をスケジュールに打ち込んだりWeb教材を更新したり新年度明け。

2年間で卒業に必要な科目をこなしながら

選択とはいえやり直しのできない司書科目を

取りこぼさない短大生もやるじゃないか。

田舎の小中学校時代に山菜を採って売ったり家内工業のアルバイトで稼いだりした小僧が税務会計事務所モノを作ったり売ったりしなくとも金をもらえやがて司書に転職。

完走できずリタイアした大学図書館の担当業務を

引き継がれた司書の方もたぶん先月で満期卒業のはず

筑波での長期研修同窓生の定年退職者は誰だったろう。

産業構造が高次化を遂げいやおうなく日本の

戦後社会の時間割も書き換えられ追いまくられ通し

生産時間と消費時間の組み換え地点へ不時着したみたい。

第3次産業で働く人々が大多数になった世の中で
定年後の生活時間に切り替わる中から何が見える
老後を迎える未知の科目に選択も必須もなさそう。
(06.04.04)

治癒の岸边で

お宅の玄関までのコンクリートを歩いて大丈夫？

やってきた宅配のおじさんが電話をかけてきたり

とつくに立入禁止テープも外れ駐車だってOKなのに。

マンション耐震偽装問題の元建築士の奥さんが

自宅近くのマンションの七階から飛び降りてしまい

葬儀の喪主が実家のお父さんだったということだが。

巷で自閉とかうつとか呼ばれる症状をどこまで

器質的な障害として片づけられていいものなのか

身近から遠くまで見え隠れする有り様の元は心因では。

娘の子どもにはお母さんは病気だからといっても

本音のところではとても病気とは見なせないくらい

一緒に暮らせばいったい心身のどこがどうなのだろう。

食べたり排泄みたいな動作が億劫だったり

子育てや家事ができなくなったからといって

世事との接し方も十人十色の一つじゃないか。

あることに固執するあまり物事の順序の入れ替えが
できなくなったりするのにしあって心と身体がズレたり
停滞の一時期だからやがて豊かに流れたりすること。
(06.04.07)

昨日と明日に挟まれて

数日前の黄砂に煙った花見サイクリングの眺めをかき消さんばかりのその後の空模様で今朝からは雷雨にまぎれて霰も叩きつけたり。

結婚による身過ぎ世過ぎのしがらみを

どう果たしてきたかだけじゃなく民事上の義務との折り合いをどうするかまで・・・。

税金に年金に保険といえどヨメと入っていた生命保険の掛け金もこの先の支払いが負担でとりあえず組み換え先細るように見直したが。

うつで主婦業そのほかが駄目になってしまい離婚せざるを得なかった娘なんかの場合だと残ったローンや子どもの養育費が上乘せされ。

とりあえずわが家でニート状態で治癒を待つ思惑から見事に外れたみたいなの頃の姿は寝起きの場合から生活費を紡ぐ場など家の外へ。

なんとか自力で歩もうとする娘の気働きは
この前までたび重ねた自死の試みに前後した
閉鎖病棟の入退院の繰り返しからはやってこない。
(06.04.21)

とりあえずの感想

熟睡できるだけじゃなく肩凝りに
つらなる腕の痛みや痺れが薄らいだり
耳や眼までがすつきり抜けもよさそう。

ということで倍音浴CD寄りの響きに
引きずられたみたいなCDのまとめ買い
歌ものアコースティック演奏の聴き比べなど。

倍音がらみのCDだと心体から身体まで
どこにどのように響いて器官が感じている
感覚のどこからが「異常」でどこまでが「正常」なの？

五月病^①を疑ってた娘が閉じこめられたうつで
生活空間からどこまでも退いていく感覚器官に加え
自分らしい日常の腹の底からの表現が妨げられてしまった
うつ症状の数々を経て自活できるま付かず離れず接したり。

器質的な障害部分は薬物療法に頼っていても
そうじゃない日常の心身の状態そのものまで
考えなしに「病氣」だからと片づけないこと。

「異常」と「健常」のどちらかに振り分けたり
心因性の原因に踏み込めないのを誤魔化さないで
あるがままの出会いで始める暮らしがとりあえず。
(06.04.25)

お粗末。ピンボケ風景

目についた某新聞記事のあまりの阿呆らしさ

全国33都道府県の72の街頭で尋ねたんだとき
ボードにシールで通行人に憲法九条改正の賛否を。

大学の先生やら弁護士らがとりまとめた結果では
投票総数が約2万8千で賛成が約12%になり
反対が約77%で残りが「分からない」だった。

「民意は九条改正を求めていることがはっきりした。

政治家も九条を守ること世界平和に貢献して欲しい。」

おまけに「結果」を首相や衆参両院の議長に郵送するそう。

やつつけ事務局のずさんな企画に踊らされ実施した

市民団体や学生に加え調査の実証性や集計の妥当性を

検証できないメディアが名誉教授のコメントを鵜呑み記事に。

読んだ「護憲派」も戸惑うような集約の仕方に

敗戦直前に引揚げ住みついた村落で母子家庭が

あらぬ噂に小突きまわされいじめられた構図が。

ご当地に移り住んで数十年になるわが家にも
地元住民を名乗る夜郎自大の中傷電話があったり
食えないネタを後生大事にご注進の輩は跡を絶たぬ。
(06.05.05)

心体の躰け方

風もないのに雨上がりの庭木の新緑を揺らして鶯が枝から枝へ姿をくらましたら蝶が空へ逃げ。

連休中もリタイアできない世迷い事に紛れたみたいに見損なった高阪剛格闘家の引退試合をなんとか動画サイトで探したり。

こどもの亀田兄弟はともかくデラ・ホーヤがマヨルガに挑戦したボクシングにも感動できたが前へ前へハントと闘った高阪選手の姿には熱くなった。

無料放映の頃から見てきた某BS放送だったか旗揚げした格闘番組で彼がリング上でとりわけ寝技に入った攻守で見せた受けと返し技の連なり。

いつもは週一のスボ少バド練習だったのに連休後半の三日間の朝練で相手になったりした5年生の新人にはめきめき基本ができる姿も。

自己や異性や共同性に囲まれともすれば
強張って固まるか緩みっぱなしに崩れがちな
自らの体内感覚を頼りに心体を操る動作技法を。
(06.05.09)

あるがままなすがまま

路線バスから見る街路樹や梨畑の花も終わり
久しぶりに出かけたキャンパス内のバス停を飾った
藤棚も散りはじめ夕日にひとときわ色あせて見え。

茂りはじめた庭木の陰で根を張ってしまい
じいさんの置き土産みたいな櫛の盆栽の
鉢を割ったりしないと取り出せなくなっていた。

人や物事との関わりみたいに時を経て
からみあつたりもつれてしまったものを
ときほぐすなんてことはとてもできそうにない。

あんなことこんなこと過ぎてしまったのに
無意識の鎧のように着込んでしまっていて
いざ脱ぎ捨てようとするのとんでもないことが。

よそ目には確かな答えがあるように見えたり
ガイド付きの山道を上り下りるような暮らしも
いったん事が起これば踏み迷って崖っぷちに。

世事をめぐるなにもかもがあぶなつかしいが
ともかく支払った高額医療費が戻ってきたり
この頃はたちまち殺しあう人事に法や国家は？
(06.05.12)

やれやれ

若年の頃からの腰痛との付き合いだが
ぎっくり腰に見舞われやすい若葉の季節
というのが定番になってきたのだろうか。

週末の体育館でシューズを履き替え立とうとして
急な腰痛に身動きならず車で家に送ってもらって
とにかく凝り固まった腰部を解きほぐすように
できるだけ普段の骨盤体操を繰り返してみたり
ひと所で同じ姿勢を避け杖に頼らずそろそろ動いた。

書誌入力をするために手にした吉本老体論では
なんと腰が痛い要素の半分は精神的なものだから
抗うつ剤を飲んだら治ったというのが初耳だった。

自活しているうつ治療中の娘が顔を出したり
接骨院へ送迎しようかなどと電話をくれたが
服用薬を分けてもらって試すという手もあったな。

足腰が立たないということにでもならない限り
自宅で自力で自然治癒するように養生したい
という姿勢が手放せないというのが当面の老化対応。

百歳の手前で身動きならなくなった祖父さんを
介護したお袋の行動範囲もわが家の1階だけに
狭まった今日この頃とはいえ先のことはともかく
施設にあずけ泊まりがけ外出なんてできそうにない。
(06.05.16)

開かれた姿勢で

日頃の養生のおかげか夜間開放の体育館でバドミントンの基本技の相手をしたり

簡単なゲームを愉しめるまでになったが、

2コマ続きで教卓のイスに腰掛けたまま授業用PCを操作しながらおしゃべりをやったりすると腰の痛みがぶり返すようだ。

眠ったまま泳ぎ続ける魚だったら

寝起きの腰痛はないかもしれないが

寝返りの連続技で熟睡なんてできっこない。

プチセップだったか半身がブドウの木という

バツカスの子孫みたいに椅子に座り続けて

飲んだり食べたりPC操作なんてのもよくない。

インターネットに番組を流す商売が通信網の

ただ乗り[※]か否かの意見公募で各社に交じって

コメントしている合衆国政府の姿勢が際立つ。

日本政府のコメントが見当たらないのは
政府に対する庶民のアジア的な姿勢というか
山川草木すべてに国家がただ乗りしてきたから。
(06.05.19)

できることできないこと

真夏日で週が明けた翌日は梅雨もどき

連休に山間部の花と緑のドライブに誘われた後はサイクリングしたくなるような五月晴れもなく。

掃除と洗濯と洗い物ができるようになって

嬉しいメールがうつ回復期の娘から届いたがわが家じゃカーテンを洗濯したら寸足らずに。

とつくに足腰定かじゃないがなんとか一人で
お風呂に入っている間に腰痛を気遣いながら
お袋の部屋の掃除をさりげなく済ませたり。

身体が自由が駄目になってくるほどに

それを補うみたいに妄想が働くみたいだけど
老いてますますその日暮らしの宿命論者に。

自閉は社会的自己とのうつは自己自身との
それぞれ関係のズレを余儀なくされた姿が
伝えられる「事例」や「症例」に見え隠れ。

結果だけを見てあれこれあげつらうばかり
食べるか出かけるネタで痩せ細るテレビ番組に
飽きればネットで楽しむビデオ検索が面白い。
(06.05.23)

庭でひま潰し

掃除とか身体操法の一人稽古みたいな年がら年中できる息抜きとは一味違う割り箸で庭木の毛虫取りなんてどうだ。

つまもうとすると糸を引いてスーッと逃げ落ちるから底に殺虫液を満たした厚手のビニール袋で受けとめるだけ。

とにかく一匹一匹潰さなくていいしあとは逃げないよう袋の口を縛っておくだけ動かなくなったら液を抜いてゴミに出す。

小鳥が餌にしてくれたらいいのだが久しぶりにわが家の前の空き宅地の区画で新築工事がはじまって寄りつかない。

移植した木瓜の根付きが悪かったのか少ししか伸びていない若葉の枝ぶりをまるで狙ったみたいに毛虫がよつてたかった。

八重桜の葉っぱにも虫食い跡がちらほら
脚立を持ってきて殺虫剤を撒くなんて
どうも虫の好かないやり方かもしれないと。
(06.05.26)

行きつ戻りつ

リタイアしてはまった二度寝の心地よさだが
枕元で使い慣れたラテカセがくたびれ果て
衣替えみたいにすんなり新機種に乗り換えたら
FM・AMラジオの他にiPodも目覚めのBGMに。

なんとか自活できそうかなというところで
うつに揺り戻されたみたいに体調を崩しひとまず
わが家に戻った娘の枕元にそつと置いてみたり。

先月初めにモト旦那やその親から電話で子を
めぐり散々言われたことが尾を引いたみたいに
じわじわ心体的パニックを引き寄せてしまったのか。

何がどうなったのか聞こうとしない耳と
見ようとしない目でくつつきあった家族が
吐き出すBGMは聞き流しやり過ぎすしかない。

脳動脈瘤の術前術後もめげずに活動し続け
ネットのBGMみたいに自作アルバムを公開する
ニール・ヤングの「生命力」が遠く響いてきたり。

経済的な自立も目指しながら病も治す
なんてそうたやすくできることじゃないが
出会う雑音をBGMに休み休みやるしかない。
(06.06.03)

空梅雨の晴れ間で

二人の心と身体が協力してやってしまった
そんな後始末を離婚協議書に委ねてみたって

なんだか馬鹿げた成り行きに戸惑ったり憤ったりすることもある。

男と取り交わしたその都度協議だなんてタダの紙切れ
会わせられないと言われて女が子どもに誕生プレゼントを
贈ったら男の女親から電話でどのように言い返されたのか。

あれこれ睡眠障害もぶりかえしうつが治癒するよう
なんとか自活しはじめたのもつかの間にも崩れたが
音沙汰は途切れず娘からドライブに誘い出された。

その昔一日をかけ新穂高温泉を経て飛騨乗越しで
眺めた槍の穂先を雲の中に想い描くうちにヨメや
娘らに乗せたロープウェイは無言の緑を滑空する。

この冬に5メートルを越えた残雪が湿地に柔らかく
見頃のミズバショウが群生する傍らで露の臺に
紛れ込んで行き場を失ったキヌガサソウが揺れ。

過ぎし山歩きの話に花開く老女らの傍らで
遅めの昼食のテーブルを囲んだ腹ごなしみたいに
ダケカンバやカラマツを散策し露天風呂に浮かぶ。
(06.06.27)

ケーキの味わい

呼び出された救急担当医から致死量に近いと言われ
肝臓毒性の加療時間が経過した娘からの連絡で
かけつけ当直医に「不良患者親子」を演じ退院の運びに。

今回も命を救ってもらったと言わせてもらえば
とりあえず当面の応急処置はやらざるを得ないが
そんな事態に立ち至った患者は見放す総合病院体質。

「問題児」扱いして姨捨山みたいに突き放しておいて
知らぬ存ぜぬでは済むようなことではないだろうに
事の本質だけは診ざる聞かざる言わざるなんだから。

どうせいまに死ぬしかない命なんだから
とにかく自然死を生きるしかないだろう
家族で交わした会話も届かない暗闇が怖い。

うつ病主婦となって家族解体だけじゃすまず
あれこれまわりついた出来事にもケリをつけ
今回の退院先が実家じゃないってのが何ごとかだが。

快気祝いでもあるまい持参ケーキをみんなで食べ
わが家に放ったらかしてあった炊事用具そのほか
持ち帰り食べさせたい相手がいたって事の方が大事。
(06.07.18)

夢に残な抜け道

久しく甲子園富山地区予選を見に行っていないが

テレビで観た準決勝はシード校を破って勝ち上がった

ノーシード対戦と順当に勝ち上がったシード校同士の試合。

曇ったようなスコットランドの風景をバックに

口の悪い母を連れ息子を聴覚障害にしてしまった

暴力亭主から逃げ回って転々とする主婦の気働き。

生活感が違い過ぎる洋画といっても「Dear Frankie」の
九歳の息子ともなると大人のやることに気付くだけじゃなく
自分を取りまく思惑のすべてを見通してしまっているのだ。

ローンを抱えた共働き主婦がリストラされ

パートでしのぐうち育児も家事もできない

うつ関係で崩れるしかない現実もあったり。

いずれ夢の落とし所もないくらい仕方ないことに

それでも自分か異性か社会のどれかに託すしかない

ひょっとした出来事が待ち受けていたりするから。

いつの間にやら違う野っ原を歩いていたり
尾根筋を迷い南北逆に斜面を下つてしまい
夏の川筋を辿ったら人里に行き着くようなことも。
(06.07.28)

軒端の友

散歩にならない近さの郵便局の往復で汗ばみ
半端じゃない暑さ続きの毎日に夕立もなく
西日が沈む頃は庭木の水やりが欠かせない。

田舎暮らしの地縁から引っこ抜かれるように97歳で
市街地への引っこ越しに同意した祖父は移植した庭木の
手入れというよりただ眺め暮らした日々が3年あまり。

春夏秋冬庭の手入れは近く遠く職人まかせで
かつて共働き夫婦の手を煩わせず猛暑の夏の水やりなど
一手に引き受けたお袋に代わって出番が回ってきたよ。

家族それぞれ通り過ぎたほぼ十年ごとの坂道の上り下り
引っこ越す前に七十代での1年半あまりの寝込みから起きた
晩年の祖父みたいに八十代半ばのお袋も持ち直したか。

高齢生活者の知恵で老人式をやって新たに長寿社会を
迎えるなんてことにでもならないと成熟もままならず
どう老成すればいいのかますます覚束なくなりそう。

田舎暮らしの軒遊びといえばままごとより
まず蜘蛛の観察だったからうつかり放水で
蜘蛛の巣を破らないようにノズルを使い分け。
(06.08.11)

お盆の渋滞模様

購読ML配信も迷惑メールも渋滞していて
昨朝の首都圏大停電のニュースを見たとき
数日前の英国航空機未遂テロの事が浮かんた。

JRとタクシーを使うと半日がかりになる
田舎に置いてきた墓へのお参りも今年は
娘が13日に都合した車で往復2時間あまり。

ここ数年は車を降りてわが家の墓石を
探すように雑木山を上り下りするの
倒木に邪魔されながら藪漕ぎしている。

戻り際に墓掃除に精を出す地元夫婦と
挨拶を交わせばなんとも遠い知り合い
聞くとところ地元じゃ墓山の手入れも滞った。

今朝のテレビのワイドショーが追いかけて回す
引き際の小泉靖国参拝劇場は還暦を過ぎてなお
渋滞きわまりない戦後の欠片じゃなかろうか。

田舎暮らしの子どもの頃は戦争体験を
語ってくれた男らの姿に異国の丘が重なり

今日この頃は、虹の彼方に、
沈黙のリズムで聴かせるU×菊地成孔の一曲。
(06.08.15)

綾取りする夏姿

ノートPCに組み込んだテレビで楽しんだ
2006夏の甲子園観戦も終わった夜はBS番組の
「シリーズ日本の名峰…北アルプス」に見入った。

十代の終わりからの10年間で訪れた山々の映像に
稜線を歩いた足触りから3点支持から4点支持へと
岩稜の上り下りの感触で強ばった姿勢も解されそう。

水やりする庭で見かける蝉とカマキリの
疲れを感じさせない動きに再試合となった
決勝戦を投げきった両校エースの姿をかさね。

五十歳を超えた男でないと大人じゃない
トーク番組で二十歳前の女優がさらっと
言っただけホスト役の年配タレントが微笑む。

アメリカの議会図書館ではデジタル時代に
対応する気のない職員に早期退職を
勧奨していたことがこのほどわかったとか。

目立ってきた庭木の枝枯れ具合や
熱風の跡を辿ったりしたくなる夏疲れに
晩の献立をどうしようか何が食べたい？
(06.08.22)

本と人と

なんだか処暑も過ぎたのにサイクリングにはまだ暑過ぎやしないかいということで娘の車で本や雑誌を返しに出かけた短大の図書館は空っぽでも周りは駐車スペースも見つからない有り様。

一九六〇年代に勤め始めた大学図書館の窓口からそれこそいつも本と一緒にいる女子学生の一人や二人は探さなくても目についたのに。

一九七〇年代前半の夏休みの工学部分館だって窓は開け放たれていても利用者が途絶えたなんて記憶はあれこれめぐり返せそうにない。

一九八〇年代の医学薬学系図書館の窓口では本や雑誌とともにとある利用の姿は多くともいつもそばに本がという人は見つけ難かった。

開館時間で仕切られた図書館内の人気のあるなしの落差にはすっかり慣れていたはずなのに冷房も掃除も行き届いた閲覧机にも書架の間にもまったく人影がない静けさ。

いつも本とともにある人は溢れることなく
どこかにいつも本という人が隠れていたり。
(06.08.25)

おめざにカラダ話

ここんとこウィークデーの朝起きが遅れがち
7時過ぎの「武田鉄矢・今朝の三枚おろし」が面白く
寝惚けた身体を力まずに起こしてくれるようだ。

「またまたカラダのお話で」とかなんとか
抜けの良い語り口でその道の達人のコトバを
引いては身体操法のあれこれについてのお喋りが
寝そべった耳からすんなり入り込んでくる。

フォークバンドに始まりテレビドラマや映画や
舞台そのほか身体で表現する芸能界を生きる
心身のさばき方にどのような感触を得たのだろう。

見るたび瞬時に対応できるさんまの話芸や
昼の長寿番組を持ちこたえるタモリの話芸も
楽屋裏のいかなる身の処し方で保たれているか。

さまざまな動きの座としての心体がどこかで
クロンブスの卵みたいな立ち方を体得すれば
より柔軟な動きで対応できる場が広がることに。

家族の誰かの足腰が覚束なくなったり
自分もそんなことになるのが避けられない
もう空っぽとしかいいようがなくなっても
そこから吐いたり吸ったり心体が欲しがる動きが。
(06.08.29)

越したかった夏

ようやくエアコンなしでP Cが使える庭を抜ける風に開け放した窓から近所で屋根を葺く響きが通り抜け。

お盆が過ぎてから庭木の剪定に来ますからじゃあおねがいますと言葉を交わしたまま庭師の訃報を知ってか知らぬか庭の老木が揺れ。

兜虫捕り帰りに酒気帯びドライバーに追突され橋の上から車ごと海に落ち3人の子どもを失った若い夫婦や祖父さんの心豊かな対応がテレビに。

人それぞれさまざまな現実的制約を抱え込み土地の風俗習慣に搦め捕られながらもどこかで超え行こうとする生き様がかげがえないのも病理的な時の流れに溺れずおおらかに生きたいから。

今年も寝苦しい寝室を避けドライシフトにしたリスニングルームに布団を持ち込んだ夏の夜も二人で持て余すようなモニターテレビの下敷きになんて事を気にしながらもやり過ごしたようだ。

(06.09.01)

虫の居所

わが家の真向かいに2階建て事務所が建つて
どうやら風当たりも弱まったようだが
吹いてくるまぎれもない秋の気配が伝わる。

買い取った田んぼを宅地造成して売る前に
6メートル道路にしなきゃということ
わが家の前の側溝に蓋をしてくれた業者が
買ってくれる住人が良き人であることを
願うばかりなんですけどねと語ってくれた。

空き地にぼちぼち2階建て住宅が建ちはじめ
見かけた小鳥もやってこなくなっただけじゃなく
なんだか庭の昆虫や雑草も少なくなったようだ。

玄関灯に群がる虫を食べてくれるやもりも
ほとんどみかけなかったし庭木に網を張る
蜘蛛もあんまり立派な姿は見かけられず
アメシロだけがいつもの食い荒らしぶり。

夏場にヨメ専用PCがとにかく固まるばかり
あれこれ触れど使い物にならず棄てる前に
ウイルス対策ソフトを引っこ抜いてみたら

サクサク動くようになるなんていったい
どこにどんな虫が巣くっていたのやら。
(06.09.05)

身崩し粹抜け

かつて手にした退職金をどこから嗅ぎつけたか
あの手この手のマネー絡み勧誘電話が小うるさく
とにかくいまだに留守電設定が便利な世の風情。

インターネット事始めにその便利さにびつくり
電子メールも今じゃ連日のスパムメール攻めを
一網打尽にしてしまう迷惑フォルダ設定が要る。

ひとつ事あれば何がなんでもカネと世間体しだい
そんな家風が渦巻く主流に煽られ小突かれながら
争ったり諍いにならないよう言葉を捨て間を隔て。

身の置き所も不確かなことになればとりあえず
煎餅布団に身を投げだし横たわり死んだみたい
にピクピクして筋肉も内蔵も骨もグニャグニャする。

もう後に引けないところから母の羊水に
いったん溶けたみたいに体内から目覚めの
ざわめきが湧きあがってくる日々の鍛えを。

際限がない幸や不幸にとどまることなく
これ以上ない不安定な立ち方ができれば
おのずからゆったり構えるぐらいのことも。
(06.09.12)

秋雲に映る影

ひんやりした夕暮時の不意の電話にともなう急な訪れが夜を長いものに寝返りも打てない放棄の姿勢に浮く。

「離婚」にいたる「協議」の傍らで事にあたって「その都度」話し合い子どもに会える道だけは保ちたいと。

その後もさらに当事者が思うように話して分かりあえることがないまま噛み合わない思惑で仕切られ隔てられ。

授かった子どもの「養育費」と「面接交流」をどうするか別れた双方が出会ったときのように他者を交えず自律して話し合えそうにもない。

家族にも社会にも自らに対してもそれぞれでできるだけ勝手に気ままにどこまでも振る舞い続けたいのに三方向が交わる立ち位置がもつれ絡みあってどうにも解きほぐせない。

何よりもすこやかに育って生きていけるよう
子どもにいま・ここから事にあたるしかない。
(06.09.15)

老いに幼年の揺らぎ

さまざまな連休中のニュースの隙間から
山本昌投手の熟年ノーヒットノーランや
イチロー外野手のMLB 6年連続200本安打など。

古武術や合気の著作を読んだりすると
その道を極め続け引退や定年に無縁の
心体技を繰り出し続けた達人の生涯が。

自転車の子高生が無謀運転にぶっつけられ
頭からフロントガラスを突き破って乗用車内へ
突っ込んだのにほとんど無傷で放置されたとか。

幼少の頃の柔らかさを手放さず
不安定さも見失うことなく老年まで
体内感覚を研ぎ澄まし続けるなんて。

まるですり抜けるように一枚の板ガラスを
突き破り何ごともなかったように歩き去った
老婆の無意識のパワーなんてのもあったみたい。

気力は擦れ違い行き当たりばったり
引きこもった勢いで生命の糸がほぐれ
弛みような不安定に分散して震え。
(06.09.19)

座右の抜け殻

数年前に歯の治療に通ってた時にはじめて

「かかと磨き」してくださいねと言われ「エッ?」
だったけど今じゃ「つま先磨き」もやっている。

ネットを介した図書館の本や雑誌の所蔵調べで

「OPAC」が浸透したみたいになんか「レファ本」が
新書のタイトルになるまでに「参考図書」の品数も増え。

どうでもいいことばかりがどんどん膨らみ

本当に知りたいことを原典に探し求めたり
ひとり静かに心体に聞き耳を立てることも。

ポスト小泉政権力と人脈ファッションショウを

テレビで追いかけたりして午後の陽射しが
傾いて行くように勢力図の衣替えが演じられ。

これからどう変わって行くかはそれぞれが

日頃の座右に何を追い求め続けていくのか
毎日のそれぞれの有り様の総和に懸かっている。

晴れた秋空の下に出かけたりしながら
庭師を失った庭の金木犀が匂って窓から
部屋へと抜けるような居住まいに落ち着く。
(06.09.22)

何を誰がどんな風に

まともに読めずなかな味で判断できないのか
その作者の氏素性や性別や肩書きだけを頼りに
表現そのものを素通りする知らぬ顔の半兵衛面が。

時間差で無理心中した未成年の実名や
顔写真報道を隠したり利用者に見せない
措置をした図書館の行為が表現する行き先。

公判のどこかで自らの宗教思想を明確に
なんら開示することなく死刑が確定した教祖の
宗教理解を示す主要著作を辿るに乏しい所蔵状況。

どうにも感動のあまり楽屋にまでおしかけたり
しなきゃよかったミュージシャンがいたり
もつと話したくて後ろ髪を引かれたことも。

固有の生涯を辿るしかない表現者の一人が
どのような顔つきの作者となってこしらえた
作品に何を登場させたかはそれぞれ別々にしないと。

著者の胡散臭さが取り沙汰された『リトル・トリ―』も
誰が何人で書いているのか「きつこの日記」なんかも
リアリズムの外側でちゃんと読めるように書かれている。
(06.09.26)

庭がすつきり

大した庭でもないのに十数年前に遠いところ
むりやり世話を押しつけたみたいだったのに
生前は拙宅を訪れるのを楽しんでおられたなんて。

ご主人の遺志を継がれた奥様のお便りから
ほどなく今年の剪定作業に引き続き続くお世話も
続けてもらえ庭の木々に代わってお礼いっぱい。

ひと夏の茂りがすつきり落とされた
見通しの下に盛り上がったモグラ穴を
サンダルで踏みつぶせば定年後に庭仕事を
営業しながら病を養生された老後の立ち姿が。

一緒に越してきた庭木を眺めたりしていた四畳半で
まるで古木のように死んでいった祖父のことや
今はその部屋で寝起きしているお袋のことも。

庭の樹齢を含めたらわが家の平均年齢は
すごく高齢化して僕ら夫婦はもつとも若い
なんてことになりそうなくらいなのだが。

カラダを剪定したり接ぎ木するみたいに
クローン人間を描いた小説や映画の後は
とりわけ庭木ごと引越した嬉しさが。
(06.10.03)

継がれた家業

夏場に共同通信配信吉本隆明談話記事のローカル版掲載を見張ったりしていただいた近所の図書館の司書から届いたメールに添え書き。

エレベータ事故で亡くなられた吉本さんの弟さんの建築事務所の最後の下宿人だった学生が司書のご子息で管理人だったのが弟さんの嫁さんの妹さんということで吉本さんやばなさんの話をいろいろ聞かされてもさほど関心がなさそう。

彫刻の才能もあって優れた建築家だった一家の大黒柱を失ってさぞ大変なことに吉本年譜や伝記を読んだりしていても遠い出来事だったのに知人の逸話メールがきっかけでグーグルの検索や地図サービスで調べてみたらすぐ「吉本建築」の場所も眺められ家業を継いだ一級建築士の次男の「作品」画像が見られるじゃない。

貧乏人に金を貸し続けてノーベル賞もいいけど地元で都市生活が愉しくなるよう暮らしを配慮し住むひとの懐具合に合わせた仕事ぶりがいいね。

(06.10.17)

「愛」と切斷

名前を「ヒュウマ」にしましたと言うのを
まるで、親父の快拳、みたいに受けとつたのは
医学図書館の朝の事務室じゃなかったか。

二十六年前のことなど思い起こさせる彼の息子の
「遺作」が掲載された雑誌をようやく手にし
〈鬱病〉療養中だった〈生活者〉と「アパシー」を
書いた〈作者〉と作品に登場する〈私〉を
読み違えないように、ページをめくる難しさが。

序章では私の変調が身体的なのか心的なのか
はつきりせず分からないままどこまでも感覚や
感情の退行が続いて極まった非存在の井戸から
汲み上げられてとどまらない「自殺願望」とは。

自然―観念現象をたどった伝記的短章では
〈私は・身体として・いま・ここに・ある〉
人間の現存性を支える根拠が実在性の次元で
身体が客観的にあるにもかかわらず〈ある〉と
感じられなかったり否定的な〈ない〉に傾くばかり。

「人生相談」を試みたり「怒り」をぶつつけ
「彼女」への「遺書」みたいに綴ったあとで
「カップ」問答でおどけ「被告問答」に擬し
「老婆のひょっこり話」を挟んで「便所の落書き」
などと自作解説までやってのけるためらいと動機。

私と社会の〈いま・ここ〉を繋ぐ扉をめぐつて
自己存在から〈関係〉として引き剥がされるように
分離せざるを得ない自己がしきりに「ピキ―」と叫ぶ。

貧乏ゆすりや痙攣を繰り返す身体とそれを
止めようと思えば止められる身体をつなぐ
私の座がどこまでも過去へ遡ってしまうのだ。

生きることから逸脱する問答を繰り返し
厭世との和解の仕方を求めて「普通」の
生き難さを嘆くしかない欺瞞の石はどこに。

祖母のように「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と
呟いてみた私が愉快な気持ちで言葉にした
とたんに「出会い」も「愛」も「神様」も
すべてが過去にさかのぼった追憶みたいに
「今日、僕は死んだ」現在にしか戻れない。

(06.10.20)

授業の合間に

数年前に「情報」が高等学校の必須科目になったからといって「情報機器論」を履修する学生の雰囲気がちよつと違つたという気はしない。

家庭から社会への橋渡しをする通過儀礼みたいな学校の通り抜け方をした者にとつていじめは学校教育につきまとう厄介種として耐えるしかない。

小学校から中学校へいじめを持ち上がりだつたらせめて高校は誰その影の及ばないところを探し新たな級友や先生との出会いを作ることでもできよう。

早くから家族でも親戚でも町内や学校でもとにかく年齢や性別にこだわらない誰かとかけがえのない愛憎を酌み交わしておくことだ。

いじめたりいじめられたり黙って傍観したり三つどもえの構図がとかく集団の裏につきもの揺りかごから墓場まで抜けられないとしたらその場その場に応じて打たれ強く生きるしかない。

きもいから相手をするとかうざいから
苦手だとか子どもや学生がいろいろ言ってる
あれこれすべて可愛いと働いている人たちもいる。
(06.11.03)

枯れ葉舞い上げ

いよいよソックスで足元を温めだした日曜の午後
冷たい雨足が駆け抜けた東京国際女子マラソンの
テレビ画面を届いたばかりのDVD画面に切り替えれば
ジェームス・テイラーと彼を取り巻いた素晴らしい
ゲストらによるパフォーマンスにいつのまにか温もる。

久しぶりに晴れた土曜はスポ少バドミントンの
子どもらの試合を見がてらの紅葉サイクリングじゃなく
JRで鉄道ファンでもないのに今月限り廃線になる
神岡鉄道の往復と神通峡の紅葉を眺めに出かけた。

弁当も買わないで乗った一両編成の高山線は
始発から乗客が多く猪谷で連絡良く乗り継げた
二両編成の神岡鉄道になるともっと混みあつて
なんとか走り出したところで本日は温泉の団体客の
予約乗車がある14時過ぎの帰りの列車に積み残しが
出るかもしれないなんて車内放送に無言で「おいおい」！

だったら老いた母を家に残して夫婦で温泉一泊
なんて洒落込むわけにもいかず現地調達した昼飯も
そこそこ午後の陽射しが閉ざされ風が冷たくなった
ホームに並ぶ列に付けばヨメはコーヒーをテイクアウト。

止まっている車両の前顔と横顔しかデジカメに
収められなかったけど沿線の雑木やススキを揺らし
枯れ葉を舞い上げ通り過ぎていく走りの後ろ姿は
川面を吹く風に震えて映る紅葉のざわめきとともに。
(06.11.21)

老い支度

近所の行きつけのお店の秋の味を楽しんだり
晴れ上がった秋空のサイクリングや夕暮れの
散歩も立冬めがけたみたいな寒気で遠のきそう。

どうにも近くの美容院や郵便局への歩きもおぼつかない
お袋の散歩代わりに車椅子じゃどうしようもないなど夫婦で
話しながら散歩ついでにヒーターと台車を買って載せ帰ったことも。

体の筋肉の2／3は足腰だろうからとにかく
お袋がペンギン歩きみたいなことになるまえに
近所を散歩して欲しいと二人で話し合ったりしながら。

自分の足で庭に出たり杖をついて近所の散歩など
幼児と同じで老人も本人がしたがらないことを
押しつけるとぎくしゃくして間が悪くなるだけ。

朝のテレビの介護番組で武術研究家が椅子から
立たせたり歩かせたり座らせたりさせられる相手も
やっている自分も互いに負担にならず楽そうにやっていた。

手癖足癖みたいになった気持ちの持ち方に居座らず
僻むことなく気心が通いあう老いの場を保ち続けながら
お互いが自然な老い方をまっとうできる道はまだまだ。
(06.11.07)

見渡せば

先週末からめっきり寒くなって山雪も

そろそろ500mあたりまで下りてきそう

で町内を散歩するご老人もなんだか寒そう。

450戸ぐらいの町内で七十五歳を超える住人が

114人と最近の会報に載っていたようにだけ

お袋以外のご老人のことはほとんど知らない。

だいたいどの家にどのような年配者がいるか

幼いのになく見当がついていた田舎暮らしの

頃的生活感覚とはずいぶん違ってしまっている。

老いて死と向きあうように生きていた姿が

実像として遠ざかる一方でいじめを苦し

生と死を切り替える小中学生があちこちに。

数少なくなってきた集団登下校する近所の

子どもらを見かけても誰がどの家に住んでるか

ほとんど分からなくなってきたしまっている。

学校の成績や就職先を詮索されたり年ごろになつたら縁談まで持ち込まれ持て余した風土は薄れもの心つくまでの起き上がり小法師はどこへ？
(06.11.14)

裏か表か逆さまに

屋根雪が積もる前の背戸の雪囲いだが
上下や裏表を間違えたりはしないけど
庇に立てかける柱や金網入り波板の木枠の
順番や位置表示が風化して読取りにくい。

見慣れた地図も逆さにひっくり返すと
なんだか違った世界へ旅立てそうな
富山名物じゃないけどさかさ地図。

この「環日本海諸国図」と一九一四（大正三）年の
「海陸軍用・極東全図」や一九四一（昭和一六）年の
「大東亜共栄圏地図」を見比べた人が語っている。

「いま、憲法がとても軽く扱われています。

憲法と現実との矛盾があれば、いとも簡単に憲法のせいにされてしまう。

日本国憲法には、この国の過去を踏まえながら未来を見通した様々なメッセージが包み込まれています。それを再発見し、読み解くことは、この国の将来のためにとっても大切なことだと思います。」（水島朝穂）

一九三四（昭和九）年の「東亜太平洋地図」が記した
「非常時国防一覽」から現行憲法の誕生に至った
産湯がどのようなものであったか辿り直せないか？

日本の戦後を生きこれから生まれる子どもや
孫らにどのような産湯を使わせてやりたいのか！
(06.12.08)

毒後の良薬

一昨日の朝からの見事な「冬晴れ」もその日限り冬以外では「秋晴れ」はあっても「夏晴れ」とか「春晴れ」なんて聞いたこともなさそうだが。

面白げにヨメが読み終えてた『名もなき毒』の中で宮部みゆきが描いた「原田（ゲンダ）いずみ」が遺憾なく発揮していた疫病神ぶりが彼女の出生のどのあたりに由来したのか書き込んで欲しかった。

いつの間にやら女の職場と化した図書館現場を通り抜けるうちに出会った何人かの人物像を重ね合わせられたら「いずみ」の毒気に負けず劣らずな秘密が彼女らの幼少期の家庭にありそう。

自分らの子育てが良かったか悪かったか成人したあたりから家庭だけじゃ収まらない要素も加わったりして今さら何とも言えない。

乳胎児期から物心つくまでの第1幕に始まって思春期をどう抜け出られるかまでが第2幕か家庭と仕事の行ったり来りで明け暮れた第3幕が閉じたあたりから未知の第4幕へと。

ただ第1幕から4幕まで切り替わるそれぞれの
幕間で人知れず仕込まれた毒に彩られたりする
楽屋裏から表舞台まで人生の四季折々の晴れ間も。
(06.12.22)

老いに幼年の揺らぎ

十字路で立ち話抄二〇〇五年一月～二〇〇六年十二月

発行 二〇一五年二月四日

著者 吉田 恵 吉

編集・発行 〒939-8036 富山市

高屋敷731-6 吉田恵吉